

II 令和3年(2021年)鉱工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は上昇 —

令和3年の生産指数(原指数)は、前年比7.1%上昇の99.5となり、3年ぶりに上昇した(表1、図1、統計表第1表)。

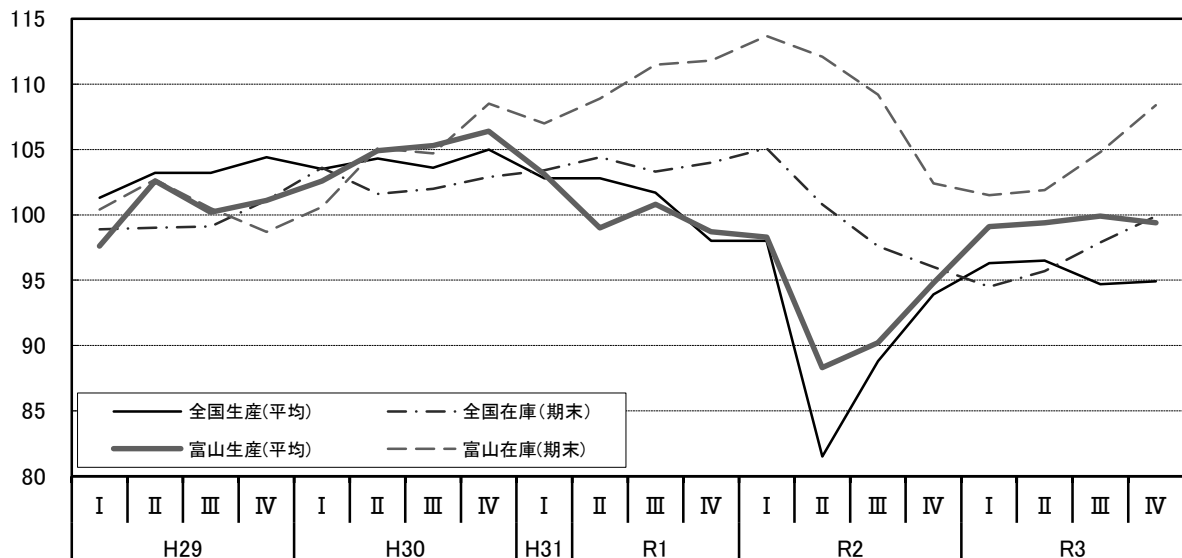
表1 鉱工業生産指数の推移

平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成29年	100.5	2.7	-	103.1	3.1	-
30年	104.9	4.4	-	104.2	1.1	-
令和元年	100.4	▲ 4.3	-	101.1	▲ 3.0	-
2年	92.9	▲ 7.5	-	90.6	▲ 10.4	-
3年	99.5	7.1	-	95.7	5.6	-
令和3年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	99.1	-	4.5	96.3	-	2.6
II 期	99.4	-	0.3	96.5	-	0.2
III 期	99.9	-	0.5	94.7	-	▲ 1.9
IV 期	99.4	-	▲ 0.5	94.9	-	0.2

注: 全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 平成27年=100)



令和3年の生産の動きを四半期別にみると、前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.5%、Ⅱ期 0.3%、Ⅲ期 0.5%と令和2年Ⅲ期以降5期連続で上昇したが、Ⅳ期▲0.5%と6期ぶりに低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 2.2%と平成31年Ⅰ期以来8期ぶりに上昇し、Ⅱ期 13.2%、Ⅲ期 10.4%、Ⅳ期 3.7%と4期連続で前年を上回った（表1、図1、図2、図3、統計表第3表）。

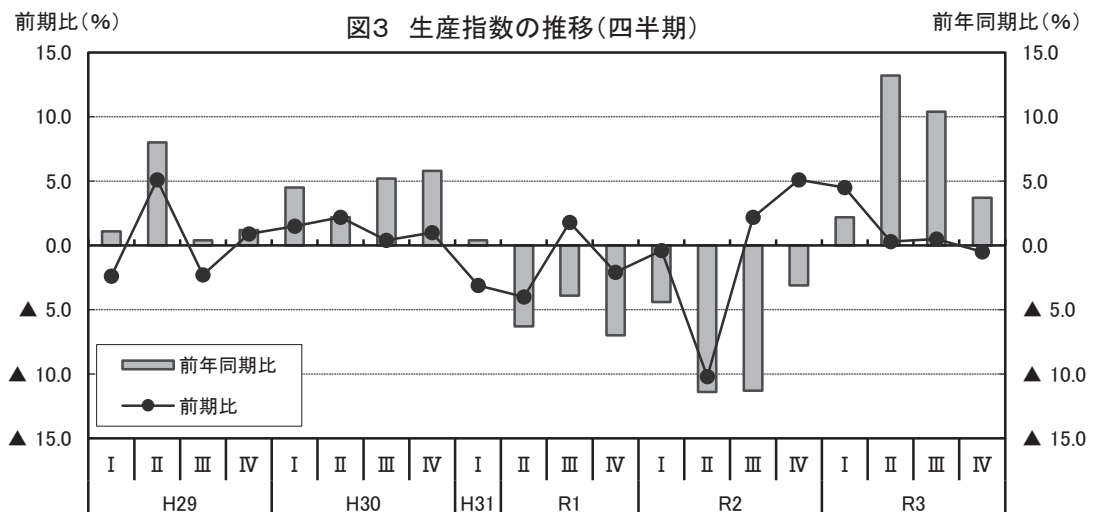
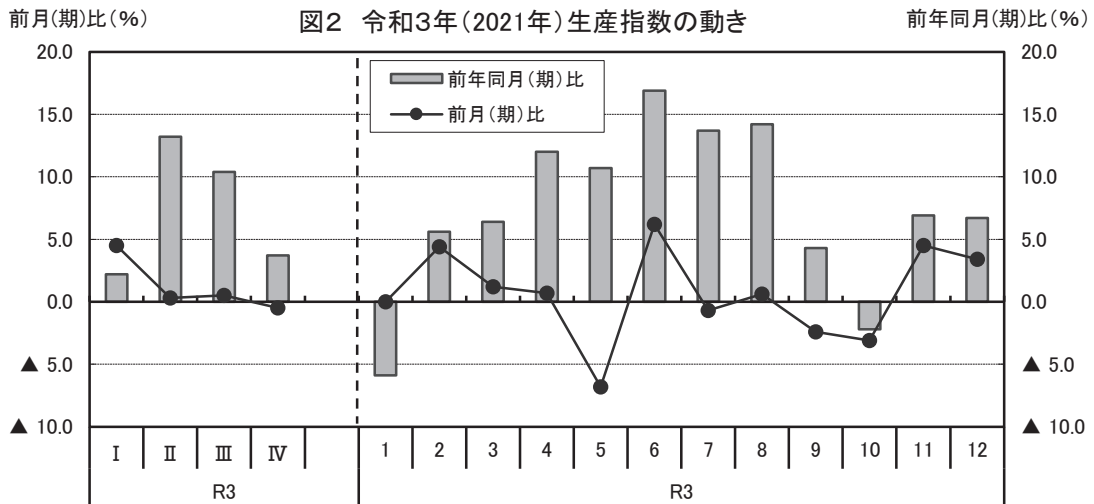


表2 生産指数(年平均)

平成27年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	令和2年	令和3年			ウェイト
鉱工業	10000.0	92.9	99.5	7.1	7.10	10000.0
製造工業	10000.0	92.9	99.5	7.1	7.10	9983.0
鉄鋼業	296.1	86.9	102.9	18.4	0.51	423.2
非鉄金属工業	390.4	87.4	100.7	15.2	0.56	201.6
金属製品工業	996.7	79.9	84.5	5.8	0.49	438.1
汎用・生産用・業務用機械工業	1496.5	92.2	119.4	29.5	4.38	1436.6
電気機械工業	1254.0	102.5	100.0	▲ 2.4	▲ 0.34	1420.1
輸送機械工業	410.9	83.0	89.7	8.1	0.30	1796.5
窯業・土石製品工業	252.9	67.5	72.2	7.0	0.13	322.0
化学工業	2734.0	109.2	107.3	▲ 1.7	▲ 0.56	1093.0
医薬品	2110.9	110.9	106.4	▲ 4.1	▲ 1.02	237.0
プラスチック製品工業	497.4	90.5	96.5	6.6	0.32	441.7
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	78.3	91.3	16.6	0.56	226.5
繊維工業	193.5	77.8	77.2	▲ 0.8	▲ 0.01	182.2
食料品工業	531.7	77.5	79.1	2.1	0.09	1313.8
その他工業	544.0	74.5	85.8	15.2	0.66	687.7

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、その他工業、パルプ・紙・紙加工品工業など 10 業種が上昇し、化学工業、電気機械工業、繊維工業の 3 業種が低下した（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは、汎用・生産用・業務用機械工業（寄与度 4.38）で、ロボット・産業機械などの上昇により、前年比 29.5%の上昇で 119.4 となった。次いで、その他工業（寄与度 0.66）が、前年比 15.2%の上昇で 85.8 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度▲0.56）で、前年比▲1.7%で 107.3 となり、次いで、電気機械工業（寄与度▲0.34）が前年比▲2.4%で 100.0 となった。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	汎用・生産用・業務用機械工業	4.38	ロボット・産業機械	その他一般機械・部品
	その他工業	0.66		印刷業
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.56		
	非鉄金属工業	0.56		
	鉄鋼業	0.51	鍛鍛鋼品類	-
	金属製品工業	0.49	金属製建具	鉄構物
	プラスチック製品工業	0.32	機械器具部品	-
	輸送機械工業	0.30		
	窯業・土石製品工業	0.13		セメント製品
	食料品工業	0.09	畜産食料品	飲料
低下業種	化学工業	▲ 0.56	化学肥料	医薬品
	電気機械工業	▲ 0.34	電子部品	
	繊維工業	▲ 0.01	衣類	織物

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

前年比(%) 図4 業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

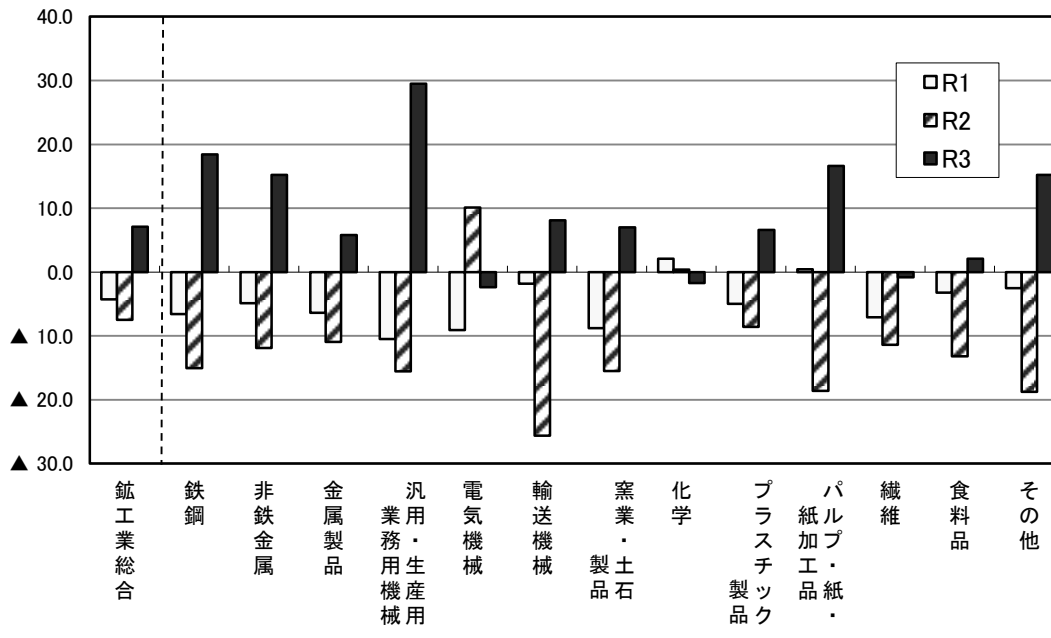


図5 業種別生産指数前年比と寄与度

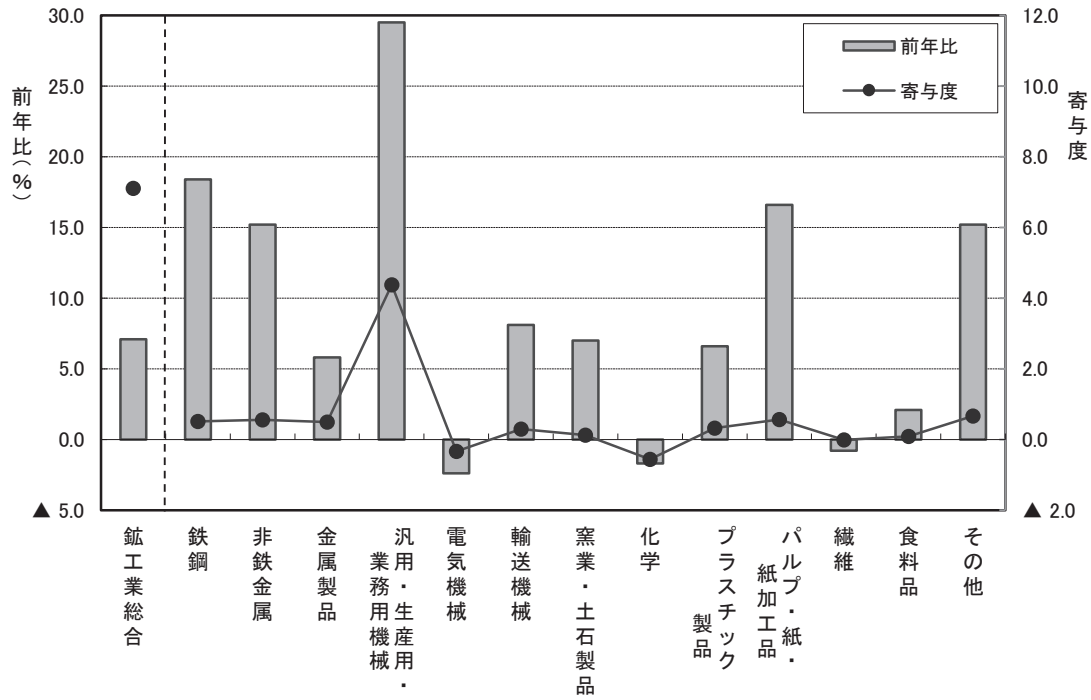
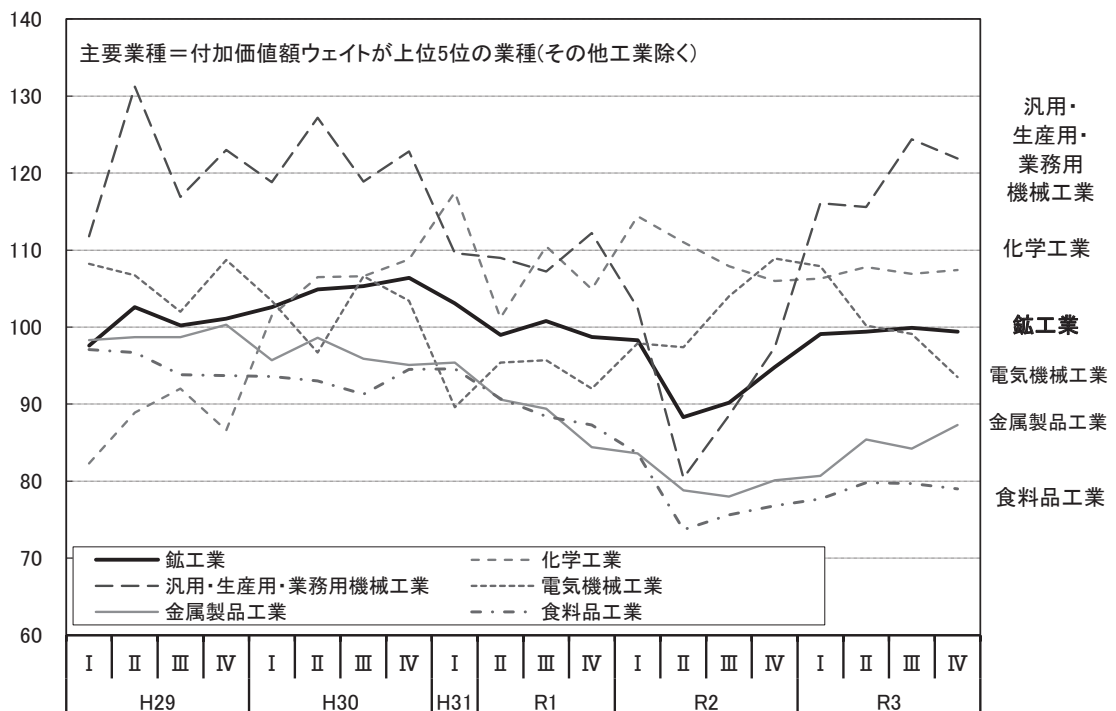


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成27年=100)の推移



財用途別生産指数（原指数）の前年比は、最終需要財が5.2%の上昇となり、生産財が9.1%の上昇となったことにより、全体で7.1%の上昇となった。

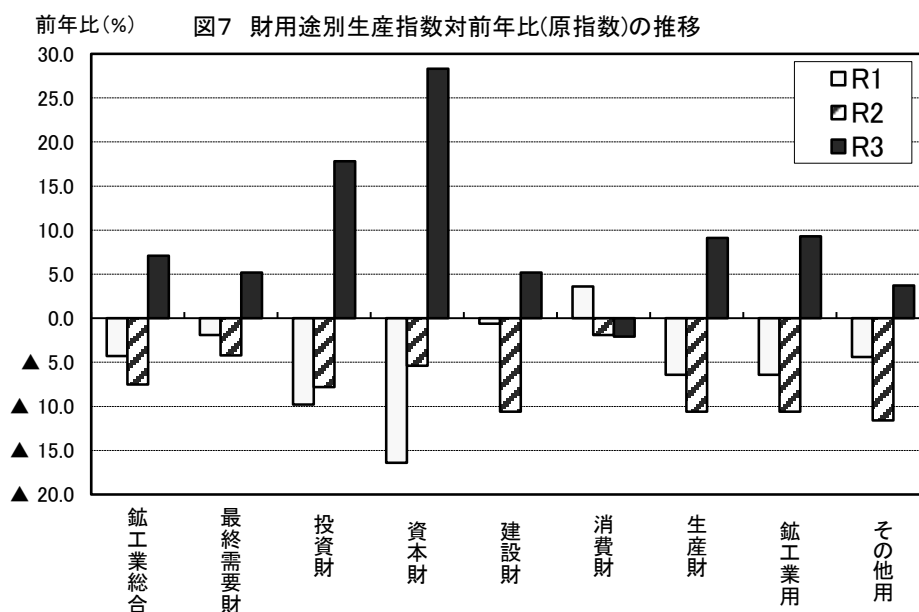
最終需要財は、投資財（寄与度 3.27）が前年比 17.8%上昇し、消費財（寄与度▲0.66）が前年比▲2.1%となったことにより、全体では5.2%の上昇となった。

生産財は、鉱工業用生産財（寄与度 4.45）が前年比 9.3%の上昇となった（表4、図7、統計表第2表）。

表4 生産指数（財用途分類・年平均）

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		2年	3年		
鉱工業	10000.0	92.9	99.5	7.1	7.10
最終需要財	4819.7	96.7	101.7	5.2	2.59
投資財	1885.7	90.4	106.5	17.8	3.27
資本財	972.2	95.7	122.8	28.3	2.84
建設財	913.5	84.8	89.2	5.2	0.43
消費財	2934.0	100.7	98.6	▲ 2.1	▲ 0.66
耐久消費財	127.3	X	X	X	X
非耐久消費財	2806.7	X	X	X	X
生産財	5180.3	89.4	97.5	9.1	4.52
鉱工業用生産財	4985.4	89.6	97.9	9.3	4.45
その他用生産財	194.9	84.2	87.3	3.7	0.07



(2) 在庫動向 — 在庫指数は上昇 —

令和3年の在庫指数(原指数)は、前年末比6.4%上昇の104.4となり、2年ぶりに上昇した(表5)。

令和3年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I期は▲0.9%と低下したが、II期0.4%、III期2.8%、IV期3.4%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)では、I期▲10.6%、II期▲9.4%、III期▲3.4%と令和2年III期以降5期連続で前年を下回ったが、IV期は6.4%と6期ぶりに前年を上回った(表5、図8、図9、統計表第4表)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成29年	95.1	0.3	-	98.8	4.1	-
30年	104.5	9.9	-	100.5	1.7	-
令和元年	107.9	3.3	-	101.7	1.2	-
2年	98.1	▲9.1	-	93.2	▲8.4	-
3年	104.4	6.4	-	97.8	4.9	-
令和3年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	101.5	-	▲0.9	94.5	-	▲1.6
II 期	101.9	-	0.4	95.7	-	1.3
III 期	104.8	-	2.8	97.9	-	2.3
IV 期	108.4	-	3.4	99.9	-	2.0

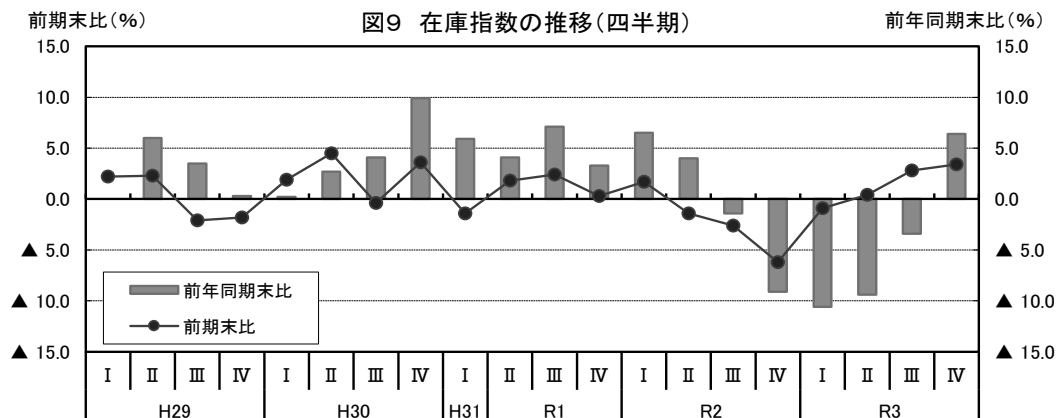
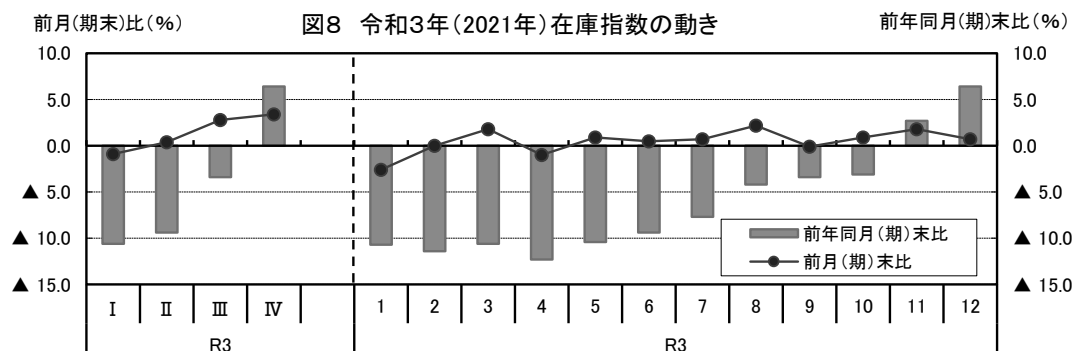


表6 在庫指数(年末)

平成27年=100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	令和2年	令和3年			ウェイト
鉱工業	10000.0	98.1	104.4	6.4	6.42	10000.0
製造工業	10000.0	98.1	104.4	6.4	6.42	9980.9
鉄鋼業	413.9	91.8	91.5	▲ 0.3	▲ 0.01	1464.6
非鉄金属工業	375.4	103.8	96.4	▲ 7.1	▲ 0.28	271.9
金属製品工業	482.2	95.7	103.3	7.9	0.37	470.9
汎用・生産用・業務用機械工業	1966.6	114.4	114.2	▲ 0.2	▲ 0.04	1027.3
電気機械工業	578.6	X	X	X	X	1122.1
輸送機械工業	225.6	81.2	93.4	15.0	0.28	757.4
窯業・土石製品工業	379.7	69.7	85.2	22.2	0.60	361.6
化学工業	3225.2	86.6	91.3	5.4	1.55	1664.0
医薬品	1318.0	99.3	88.0	▲ 11.4	▲ 1.52	-
プラスチック製品工業	621.8	127.7	129.1	1.1	0.09	435.4
パルプ・紙・紙加工品工業	597.5	59.3	79.8	34.6	1.25	321.7
繊維工業	258.1	98.5	100.7	2.2	0.06	256.4
食料品工業	603.8	82.0	78.5	▲ 4.3	▲ 0.22	860.4
その他工業	271.6	X	X	X	X	967.2

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業など 9 業種が上昇し、非鉄金属工業、食料品工業など 4 業種が低下した。(表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照)。

在庫指数(原指数)全体の上昇に最も影響を与えたのは電気機械工業であり、次いで、化学工業(寄与度 1.55)はその他化学製品などの増加により、前年末比 5.4%の上昇で 91.3 となった。

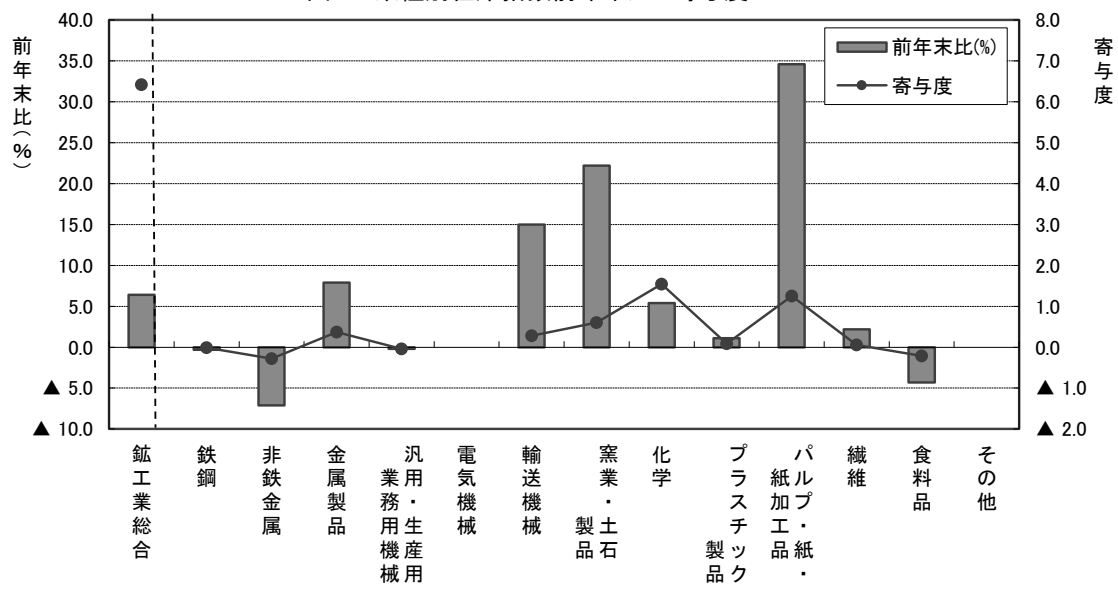
一方、低下に最も影響を与えたのは、非鉄金属工業(寄与度▲0.28)で前年末比▲7.1%で 96.4 となった。次いで、食料品工業(寄与度▲0.22)は飲料などの減少により、前年末比▲4.3%で 78.5 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	電気機械工業	X		
	化学工業	1.55	その他化学製品	医薬品
	パルプ・紙・紙加工品工業	1.25		
	窯業・土石製品工業	0.60	セメント製品	ガラス製品
	金属製品工業	0.37		
	その他工業	X		
	輸送機械工業	0.28	自動車部品	-
	プラスチック製品工業	0.09	フィルム・シート	その他プラスチック製品
	繊維工業	0.06	染色整理	織物
低下業種	非鉄金属工業	▲ 0.28	アルミニウム圧延製品	
	食料品工業	▲ 0.22		飲料
	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 0.04		
	鉄鋼業	▲ 0.01	鍛鍛鋼品類	素製品(鋼半製品含)

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

図10 業種別在庫指数前年末比と寄与度



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が▲2.2%となったが、生産財が10.7%と上昇し、全体で6.4%の上昇となった。

最終需要財では、投資財（寄与度 0.16）が前年末比 1.7%と上昇したが、消費財（寄与度 ▲0.90）が前年末比▲4.0%となり、全体で▲2.2%となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度 7.92）が前年末比 12.3%の上昇となり、全体で 10.7%の上昇となった（表8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成27年=100

	ウェイト (万百分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		2年	3年		
鉱工業	10000.0	98.1	104.4	6.4	6.42
最終需要財	3283.8	95.2	93.1	▲ 2.2	▲ 0.70
投資財	773.5	118.9	120.9	1.7	0.16
資本財	187.7	114.7	103.7	▲ 9.6	▲ 0.21
建設財	585.8	120.2	126.4	5.2	0.37
消費財	2510.3	88.0	84.5	▲ 4.0	▲ 0.90
耐久消費財	125.8	X	X	X	X
非耐久消費財	2384.5	X	X	X	X
生産財	6716.2	99.4	110.0	10.7	7.26
鉱工業用生産財	6369.9	99.1	111.3	12.3	7.92
その他用生産財	346.3	106.0	85.5	▲ 19.3	▲ 0.72

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成30年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」に位置し、平成30年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近へ、平成30年Ⅲ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成30年Ⅳ期、平成31年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年Ⅱ期は「在庫調整局面」へ、令和元年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。令和2年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和2年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置したが、令和2年Ⅳ期、令和3年Ⅰ期は「在庫減少局面」へ移動した。令和3年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和3年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成30年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」に位置し、平成31年Ⅰ期は「在庫調整局面」に移動した。令和元年Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置した。令和元年Ⅳ期から令和2年Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置したが、令和2年Ⅳ期、令和3年Ⅰ期は「在庫減少局面」へ移動した。令和3年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和3年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（キッチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

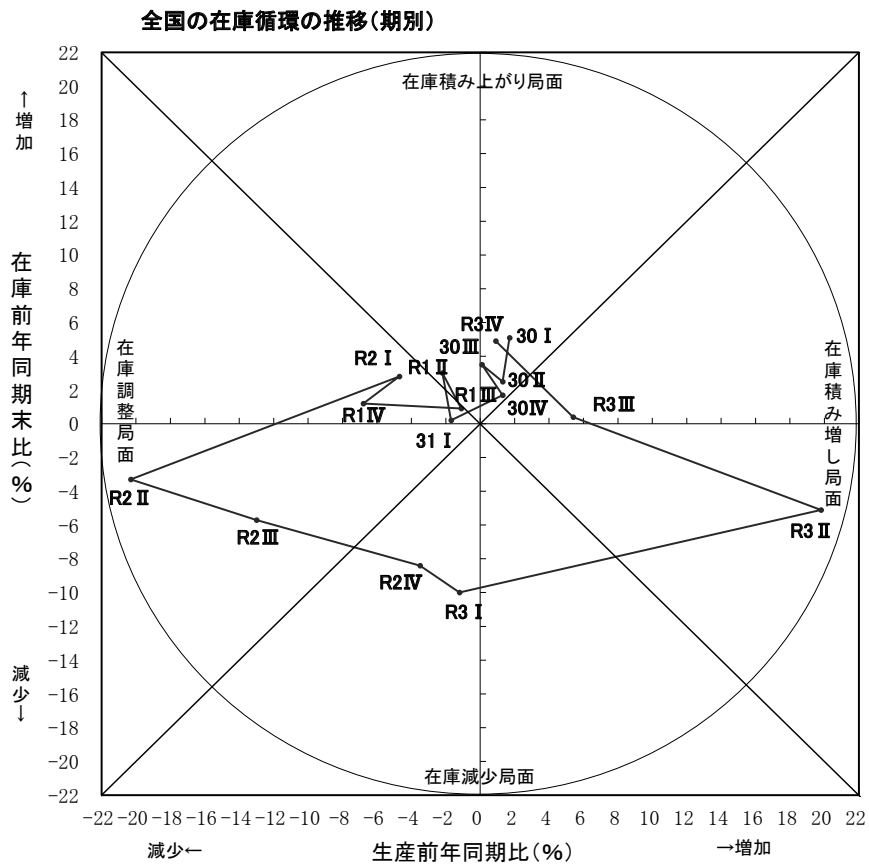
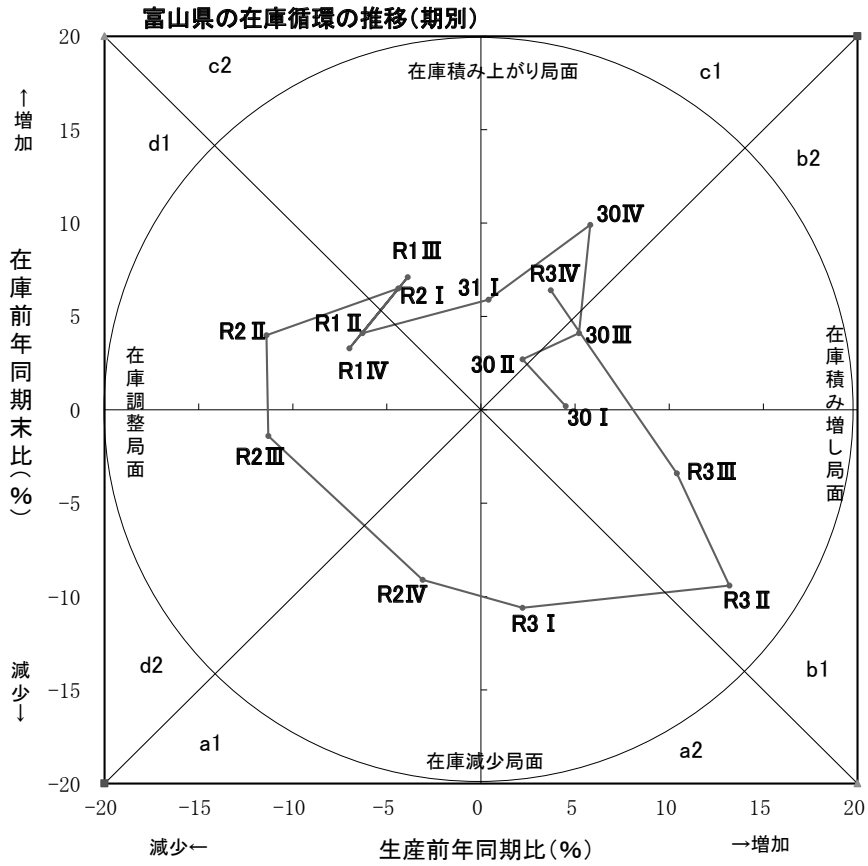
景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。



MEMO

2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

①概況

生産指数は前年比 18.4% (寄与度 0.51) の上昇で 102.9 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 3 品目すべて (素製品 (鋼半製品含)、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類) が増加したことによる (表 1、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比▲0.3% (寄与度▲0.01) で 91.5 となり、3 年連続で低下した。これは 3 品目中、2 品目 (熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類) が増加したものの、1 品目 (素製品 (鋼半製品含)) が減少したことによる (表 1、統計表第 9 表)。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
		平成27年=100					平成27年=100			
鉄鋼業	296.1	86.9	102.9	18.4	0.51	413.9	91.8	91.5	▲ 0.3	▲ 0.01
素製品(鋼半製品含)	123.0	80.5	90.9	12.9	0.14	248.7	92.6	82.5	▲ 10.9	▲ 0.26
熱間圧延鋼材	34.0	73.2	78.9	7.8	0.02	40.5	77.8	93.9	20.7	0.07
鋳鍛鋼品類	139.1	96.0	119.4	24.4	0.35	124.7	94.7	108.7	14.8	0.18

寄与度は鉄工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

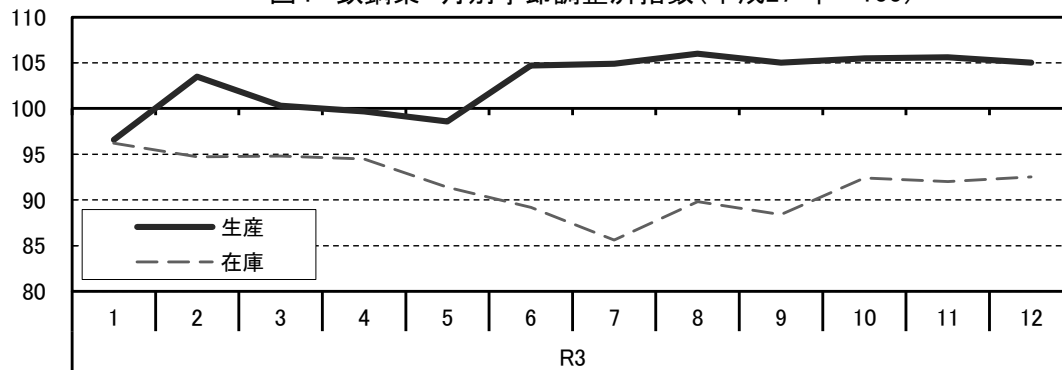
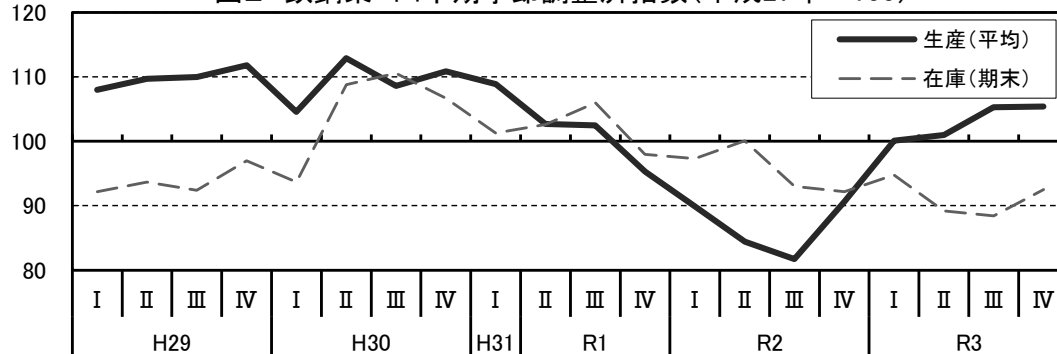


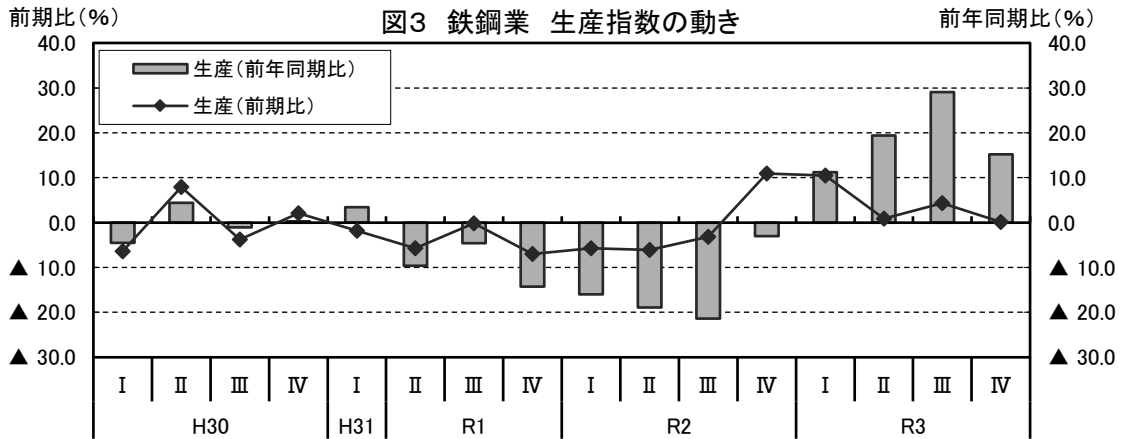
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 10.5%、Ⅱ期 0.9%、Ⅲ期 4.3%、Ⅳ期 0.1%と令和2年Ⅳ期以降5期連続で上昇した。

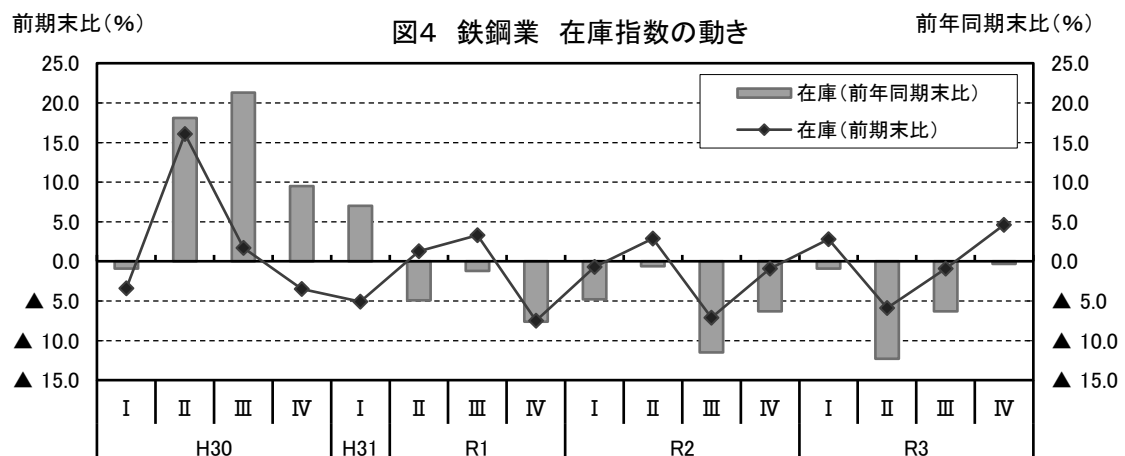
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 11.2%、Ⅱ期 19.4%、Ⅲ期 29.1%、Ⅳ期 15.2%と平成31年Ⅰ期以来8期ぶりに前年を上回った（図3、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.8%と上昇したが、Ⅱ期▲5.9%、Ⅲ期▲0.9%と2期連続で低下し、Ⅳ期 4.6%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲0.9%、Ⅱ期▲12.3%、Ⅲ期▲6.3%、Ⅳ期▲0.3%と令和元年Ⅱ期以降11期連続で前年を下回った（図4、統計表第4表）。



(2) 非鉄金属工業

①概況

生産指数は前年比 15.2% (寄与度 0.56) の上昇で 100.7 となり、3年ぶりに上昇した。これは7品目中、1品目が減少したものの、6品目(アルミニウム二次精錬、アルミニウム圧延製品など)が増加したことによる(表2、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比▲7.1% (寄与度▲0.28) で 96.4 となり、3年ぶりに低下した。これは6品目中、3品目(アルミニウム圧延製品など)が増加したものの、3品目が減少したことによる(表2、統計表第9表)。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
非鉄金属工業	390.4	87.4	100.7	15.2	0.56	375.4	103.9	96.4	▲7.1	▲0.28
アルミニウム二次精錬	32.4	81.6	90.5	10.9	0.03	61.5	X	X	X	X
非鉄金属地金	10.1	X	X	X	X	13.6	X	X	X	X
伸銅製品	77.0	X	X	X	X	176.9	X	X	X	X
アルミニウム圧延製品	69.0	91.7	99.2	8.2	0.06	40.5	143.1	167.1	16.8	0.10
電線ケーブル	17.1	X	X	X	X	12.2	X	X	X	X
非鉄金属铸件	134.3	79.1	92.5	16.9	0.19	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	50.5	122.2	126.6	3.6	0.02	70.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

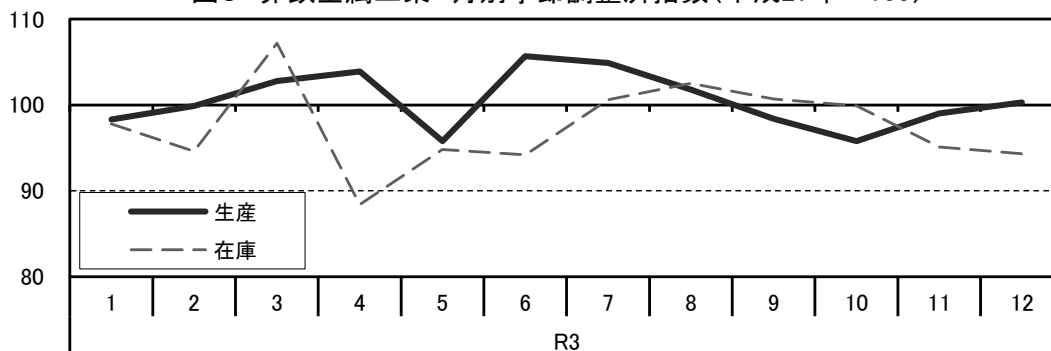
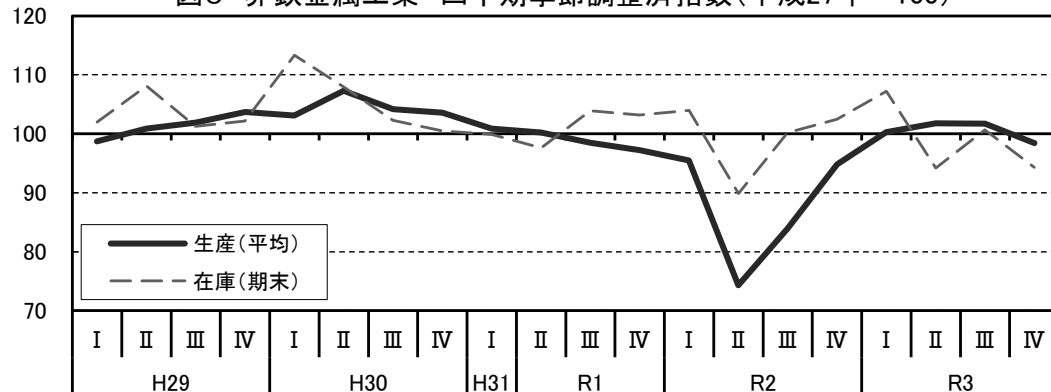


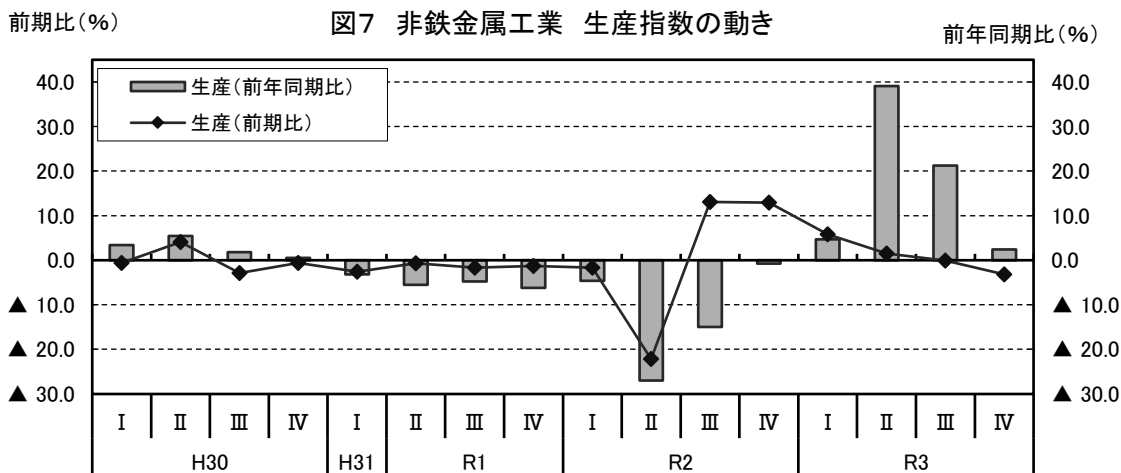
図6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 5.8%、Ⅱ期 1.5%と令和2年Ⅲ期以降4期連続で上昇したが、Ⅲ期▲0.1%、Ⅳ期▲3.2%と2期連続で低下した。

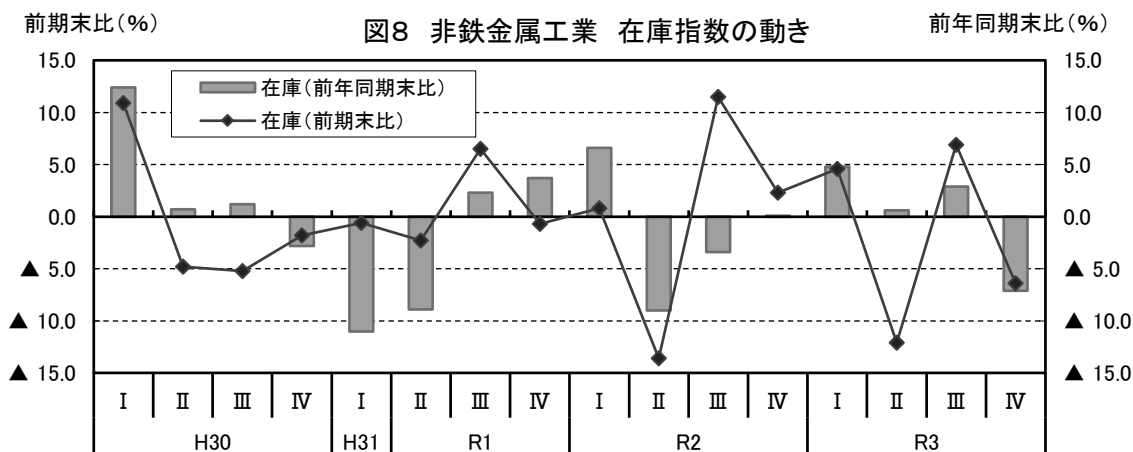
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 4.7%、Ⅱ期 39.1%、Ⅲ期 21.2%、Ⅳ期 2.4%と4期連続で前年を上回った（図7、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.6%と令和2年Ⅲ期以降3期連続で上昇したが、Ⅱ期▲12.1%と低下し、Ⅲ期 6.9%と再び上昇し、Ⅳ期▲6.4%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 4.8%、Ⅱ期 0.6%、Ⅲ期 2.9%と令和2年Ⅳ期以降4期連続で前年を上回り、Ⅳ期▲7.1%と前年を下回った（図8、統計表第4表）。



(3) 金属製品工業

①概況

生産指数は前年比 5.8% (寄与度 0.49) の上昇で 84.5 となり、7年ぶりに上昇した。これは6品目中、1品目(鉄構物)が減少したものの、5品目(金属製建具など)が増加したことによる(表3、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 7.9% (寄与度 0.37) の上昇で 103.3 となり、2年ぶりに上昇した。これは4品目中、1品目が減少したものの、3品目(金属製建具など)が増加したことによる(表3、統計表第9表)。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
		平成27年=100					平成27年=100			
金属製品工業	996.7	79.9	84.5	5.8	0.49	482.2	95.7	103.3	7.9	0.37
鉄構物	43.7	73.8	68.9	▲ 6.6	▲ 0.02	-	-	-	-	-
金属製建具	606.2	82.7	87.8	6.2	0.33	360.2	92.5	97.0	4.9	0.17
軽金属板製品	177.7	X	X	X	X	53.8	X	X	X	X
管継手	2.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
ばね	11.0	X	X	X	X	9.9	X	X	X	X
その他金属製品	155.8	X	X	X	X	58.3	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

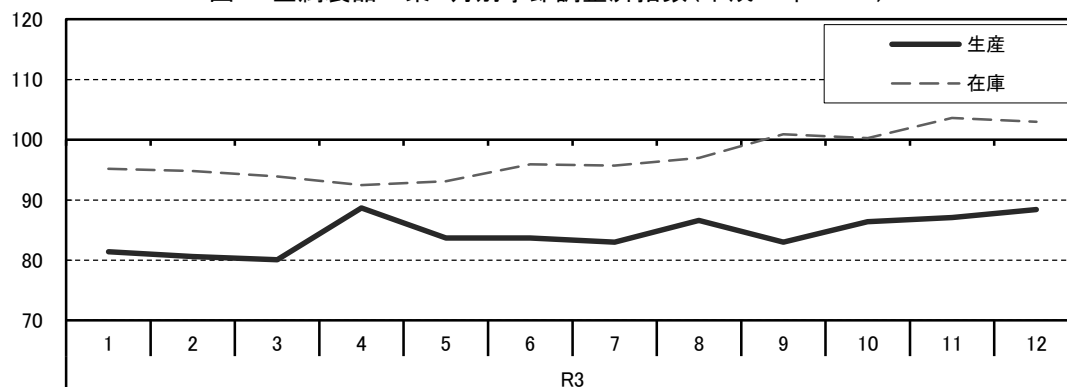
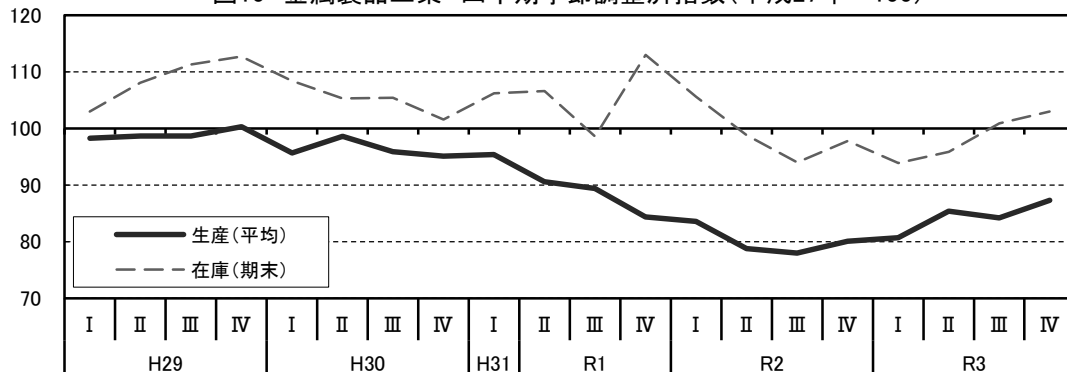


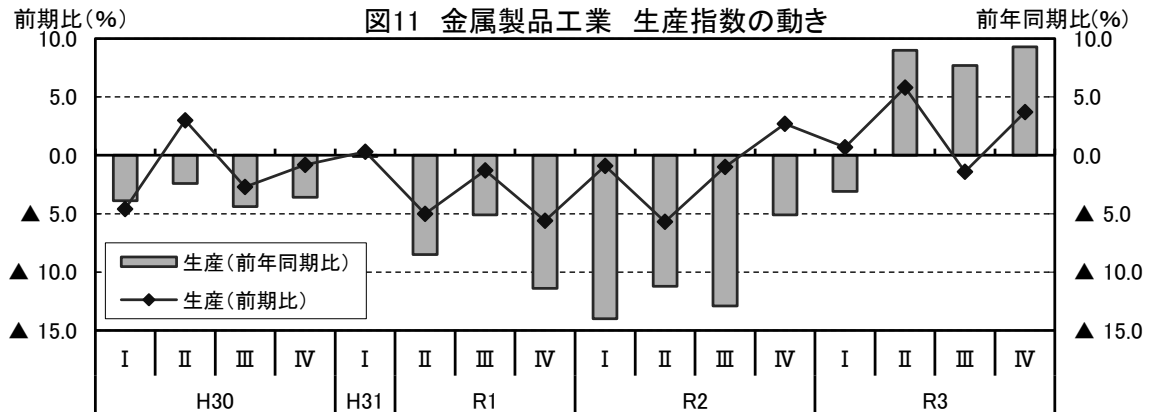
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.7%、Ⅱ期 5.8%と令和2年Ⅳ期以降3期連続で上昇したが、Ⅲ期▲1.4%と低下し、Ⅳ期 3.7%と再び上昇した。

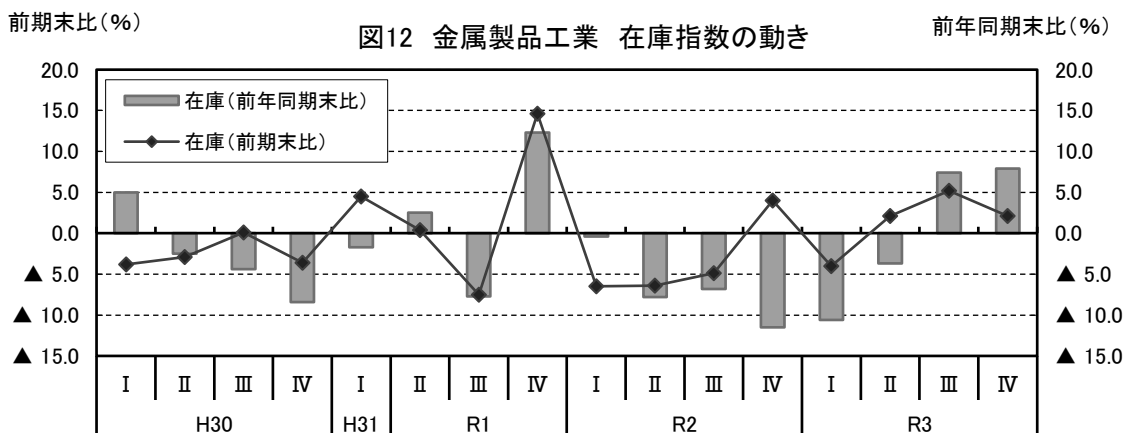
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲3.1%と平成30年Ⅰ期以降13期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 9.0%、Ⅲ期 7.7%、Ⅳ期 9.3%と3期連続で前年を上回った（図11、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲4.0%と2期ぶりに低下したが、Ⅱ期 2.1%、Ⅲ期 5.2%、Ⅳ期 2.1%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲10.6%、Ⅱ期▲3.7%と令和2年Ⅰ期以降6期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 7.4%、Ⅳ期 7.9%と2期連続で前年を上回った（図12、統計表第4表）。



(4) 汎用・生産用・業務用機械工業

①概況

生産指数は前年比 29.5% (寄与度 4.38) の上昇で 119.4 となり、3年ぶりに上昇した。これは8品目中、2品目(その他一般機械・部品など)が減少したものの、6品目(ロボット・産業機械、金属工作機械など)が増加したことによる(表4、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比▲0.2% (寄与度▲0.04) で 114.2 となり、2年連続で低下した。これは5品目中、3品目が増加し1品目が横ばいとなったものの、1品目が減少したことによる(表4、統計表第9表)。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
汎用・生産用・業務用機械工業	1496.5	92.2	119.4	29.5	4.38	1966.6	114.4	114.2	▲0.2	▲0.04
油圧機器	114.5	X	X	X	X	-	-	-	-	-
軸受	274.2	X	X	X	X	466.7	X	X	X	X
ロボット・産業機械	381.9	134.2	203.3	51.5	2.84	-	-	-	-	-
金属工作機械	334.3	62.4	69.4	11.2	0.25	56.4	X	X	X	X
金型	69.6	65.5	76.0	16.0	0.08	-	-	-	-	-
機械工具	205.7	X	X	X	X	1316.1	X	X	X	X
その他一般機械・部品	41.4	71.5	64.6	▲9.7	▲0.03	94.7	X	X	X	X
業務用機械	74.9	X	X	X	X	32.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 汎用・生産用・業務用機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

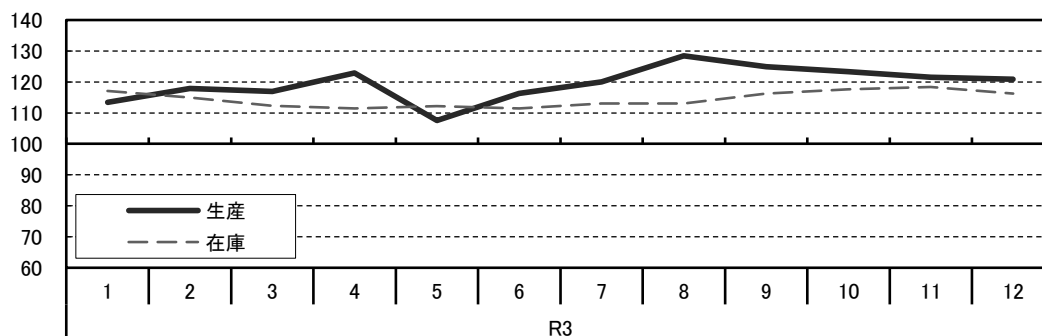
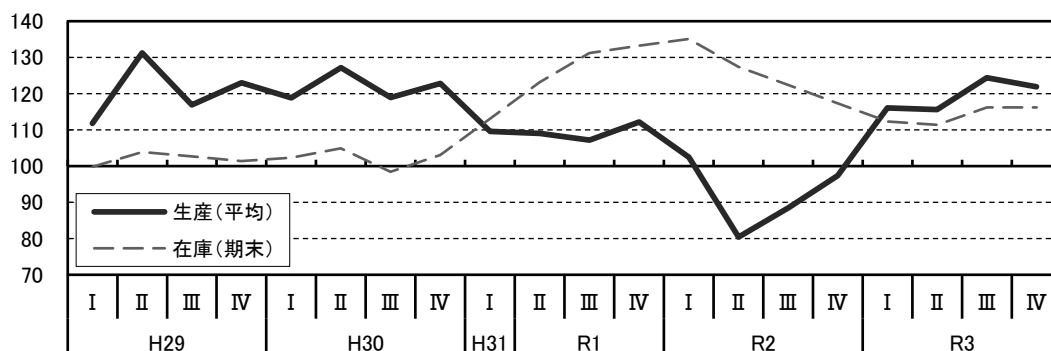


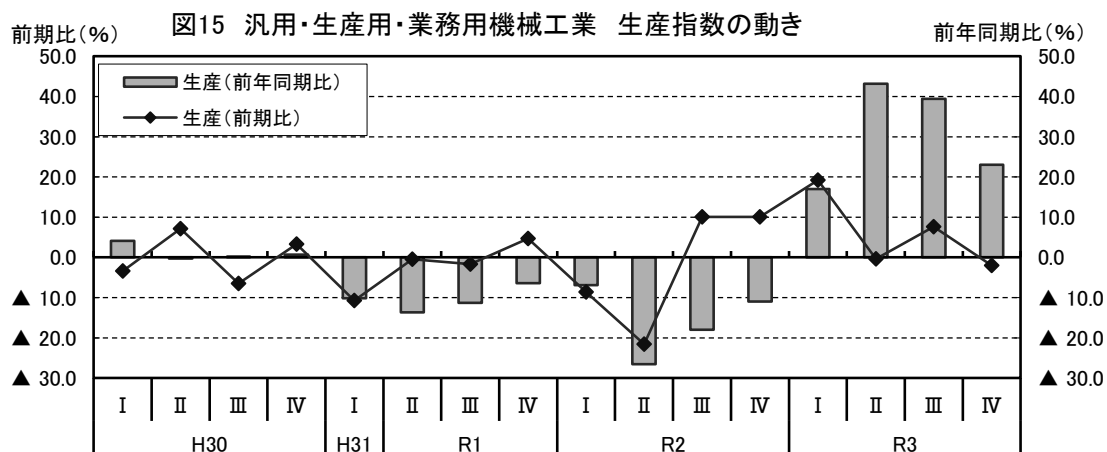
図14 汎用・生産用・業務用機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生 産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 19.2%と令和2年Ⅲ期以降3期連続で上昇したが、Ⅱ期▲0.4%と低下し、Ⅲ期 7.6%と上昇し、Ⅳ期▲2.0%と再び低下した。

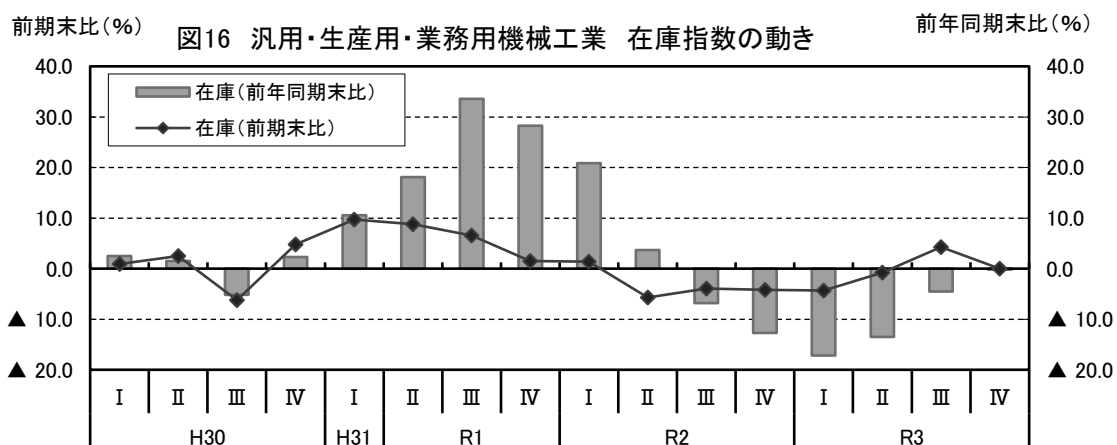
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 17.0%、Ⅱ期 43.2%、Ⅲ期 39.4%、Ⅳ期 23.0%と4期連続で前年を上回った（図15、統計表第3表）。



③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲4.3%、Ⅱ期▲0.8%と令和2年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期 4.3%と上昇し、Ⅳ期 0.0%と横ばいとなった。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲17.2%、Ⅱ期▲13.5%、Ⅲ期▲4.5%、Ⅳ期▲0.2%と令和2年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図16、統計表第4表）。



(5) 電気機械工業

①概況

生産指数は前年比▲2.4%（寄与度▲0.34）で100.0となり、2年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（電子部品）が増加したものの、4品目（その他電気機械など）が減少したことによる（表5、統計表第7表）。

在庫指数は2年連続で上昇した。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
電気機械工業	1254.0	102.5	100.0	▲2.4	▲0.34	578.6	X	X	X	X
静止電気機械器具	89.7	X	X	X	X	75.8	X	X	X	X
その他電気機械	49.3	87.3	78.8	▲9.7	▲0.05	-	-	-	-	-
半導体	91.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
集積回路	610.0	X	X	X	X	-	-	-	-	-
電子部品	413.7	134.9	139.3	3.3	0.20	502.8	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

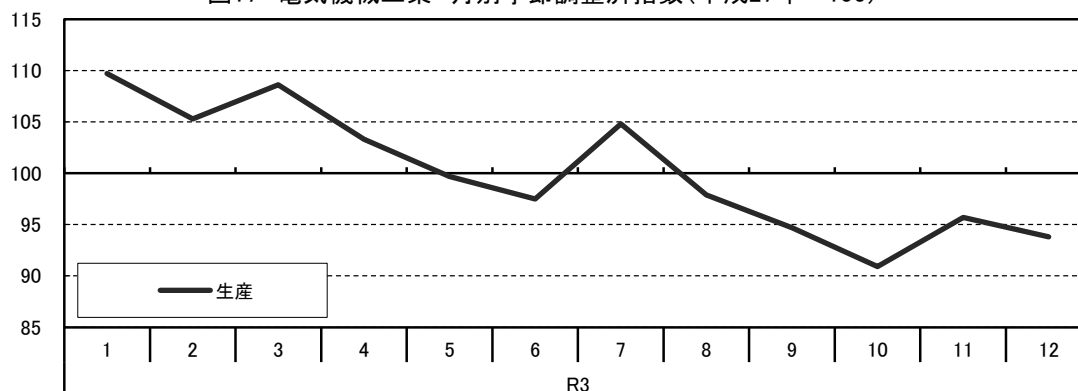
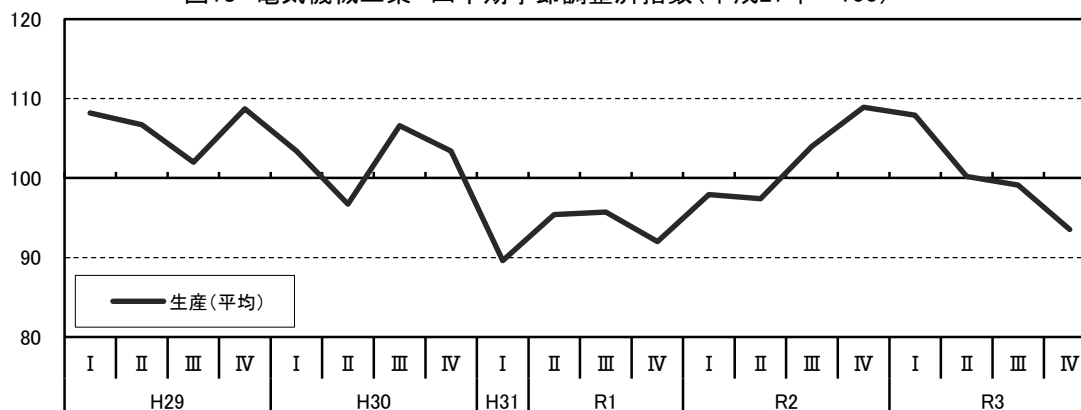


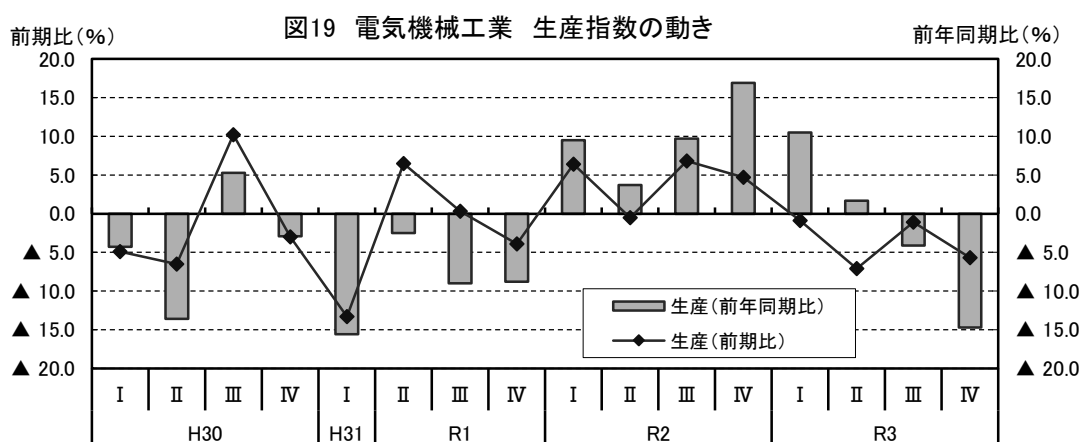
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲0.9%、Ⅱ期▲7.1%、Ⅲ期▲1.1%、Ⅳ期▲5.7%と4期連続で低下した。

また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期 10.5%、Ⅱ期 1.7%と令和2年Ⅰ期以降6期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲4.1%、Ⅳ期▲14.7%と2期連続で前年を下回った(図19、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期、Ⅱ期と令和2年Ⅳ期以降3期連続で低下したが、Ⅲ期、Ⅳ期と2期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と3期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期は前年を上回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

(6) 輸送機械工業

①概況

生産指数は前年比 8.1% (寄与度 0.30) の上昇で 89.7 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 1 品目が増加したことによる (表 6、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比 15.0% (寄与度 0.28) の上昇で 93.4 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 1 品目 (自動車部品) が増加したことによる (表 6、統計表第 9 表)。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
輸送機械工業	410.9	83.0	89.7	8.1	0.30	225.6	81.2	93.4	15.0	0.28
自動車ボデー	99.4	X	X	X	X	-	-	-	-	-
自動車部品	311.5	X	X	X	X	225.6	81.2	93.4	15.0	0.28

寄与度は鉱工業に対する数値

図20 輸送機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

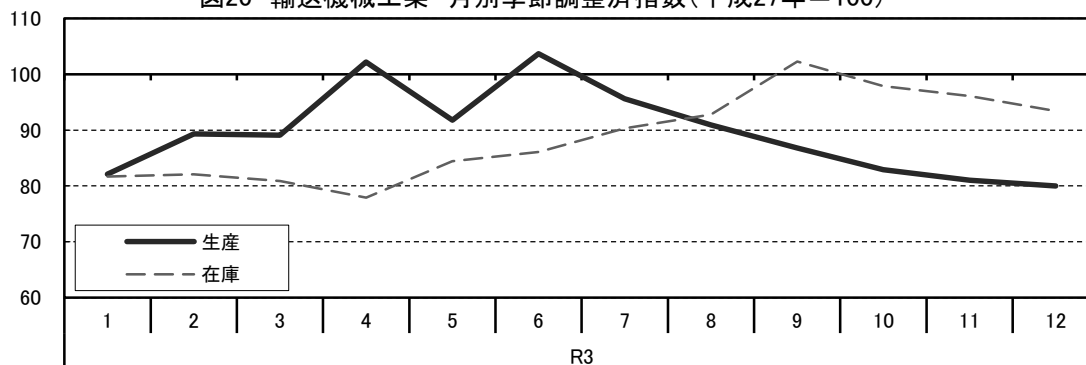
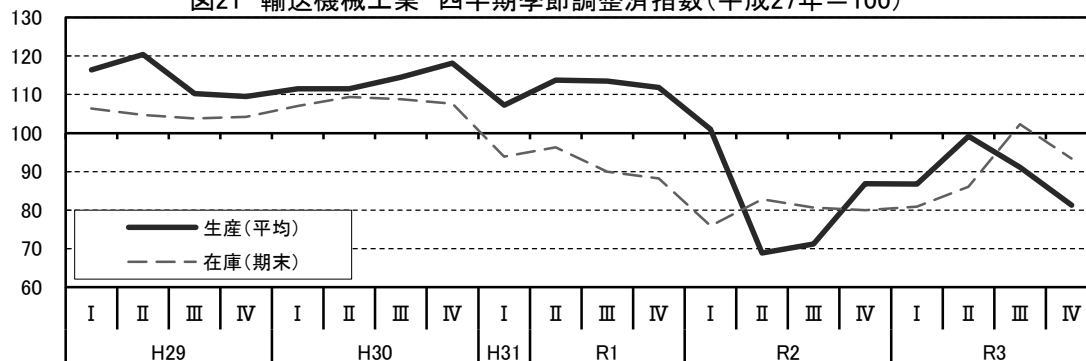


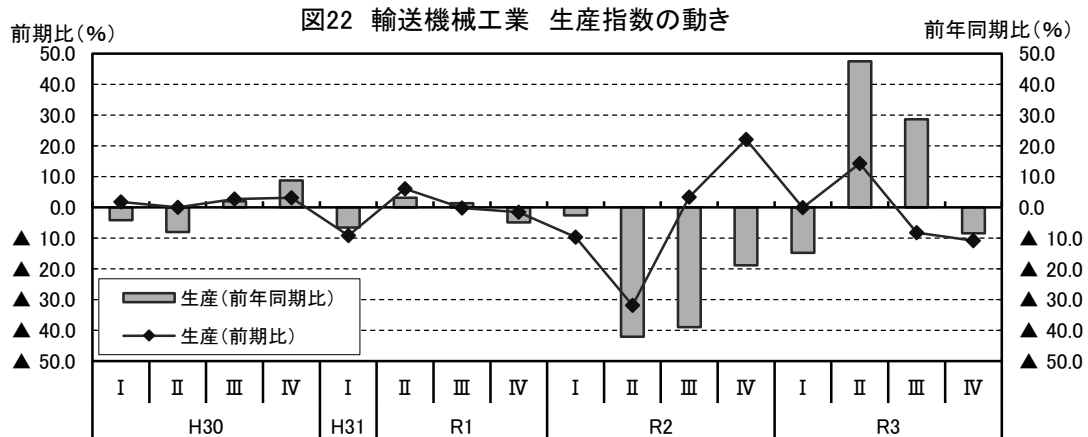
図21 輸送機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.1%と低下したが、Ⅱ期 14.3%と上昇し、Ⅲ期▲8.2%、Ⅳ期▲10.8%と2期連続で低下した。

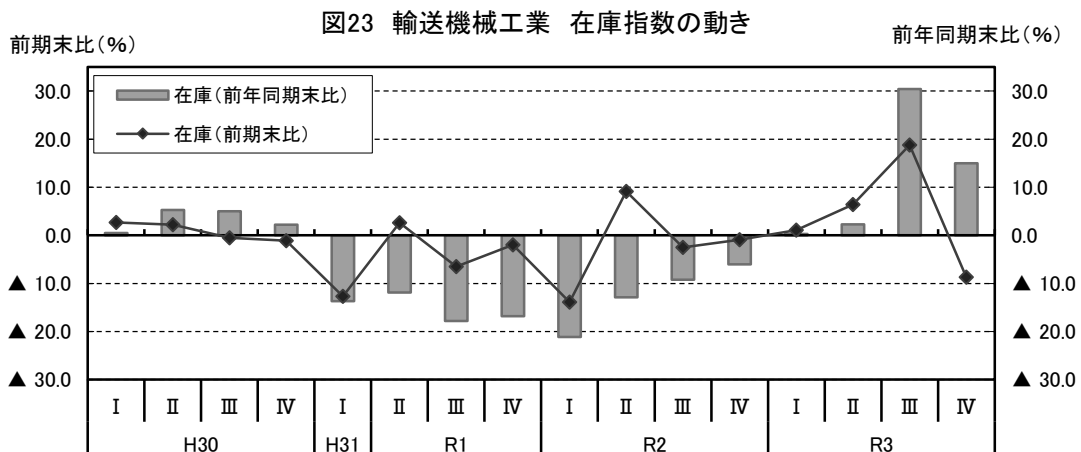
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲14.8%と令和元年Ⅳ期以降6期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 47.5%、Ⅲ期 28.6%と前年を上回り、Ⅳ期▲8.4%と再び前年を下回った（図22、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.1%、Ⅱ期 6.4%、Ⅲ期 18.8%と3期連続で上昇したが、Ⅳ期▲8.7%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 0.3%、Ⅱ期 2.3%、Ⅲ期 30.4%、Ⅳ期 15.0%と4期連続で前年を上回った（図23、統計表第4表）。



(7) 窯業・土石製品工業

①概況

生産指数は前年比 7.0% (寄与度 0.13) の上昇で 72.2 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 6 品目中、1 品目 (セメント製品) が減少したものの、5 品目 (ガラス製品、生コンクリート、その他窯業・土石製品など) が増加したことによる (表 7、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比 22.2% (寄与度 0.60) の上昇で 85.2 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、1 品目 (ガラス製品) が減少したものの、4 品目 (セメント製品、その他窯業・土石製品など) が増加したことによる (表 7、統計表第 9 表)。

表 7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
窯業・土石製品工業	252.9	67.5	72.2	7.0	0.13	379.7	69.7	85.2	22.2	0.60
ガラス製品	61.7	73.9	74.5	0.8	0.00	27.3	60.9	58.0	▲ 4.8	▲ 0.01
生コンクリート	79.4	77.2	78.6	1.8	0.01	-	-	-	-	-
セメント製品	23.7	96.9	92.3	▲ 4.7	▲ 0.01	156.3	79.7	102.3	28.4	0.36
炭素製品	52.7	X	X	X	X	113.8	X	X	X	X
ファインセラミックス	2.2	X	X	X	X	9.2	X	X	X	X
その他窯業・土石製品	33.2	74.3	81.5	9.7	0.03	73.1	91.1	112.8	23.8	0.16

寄与度は鉱工業に対する数値

図 24 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

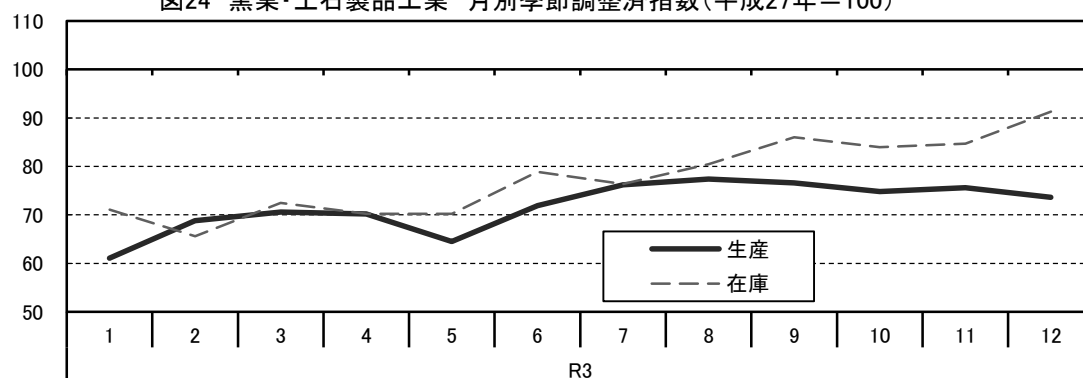
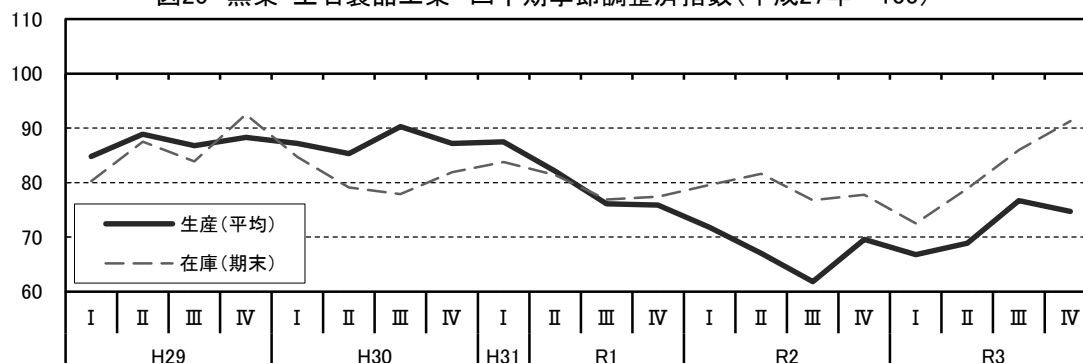


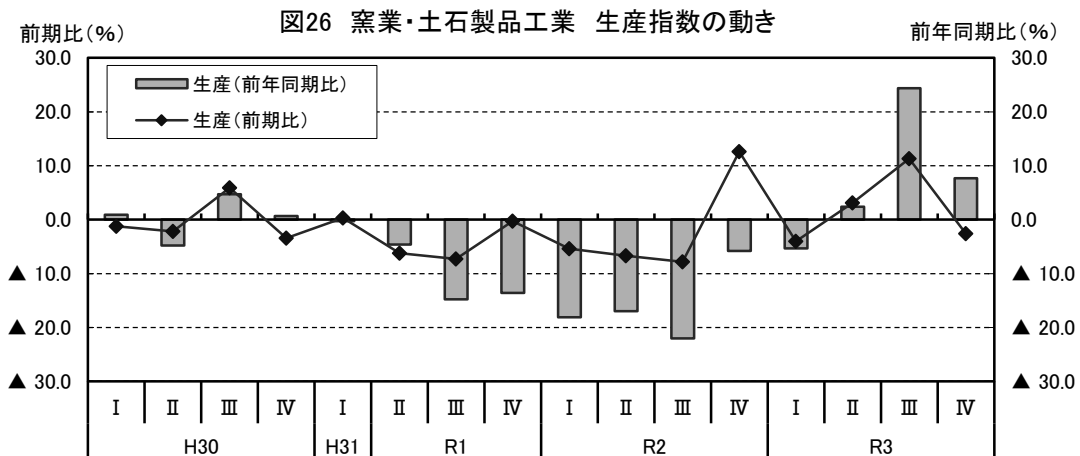
図 25 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲4.0%と低下したが、Ⅱ期3.1%、Ⅲ期11.3%と2期連続で上昇し、Ⅳ期▲2.6%と再び低下した。

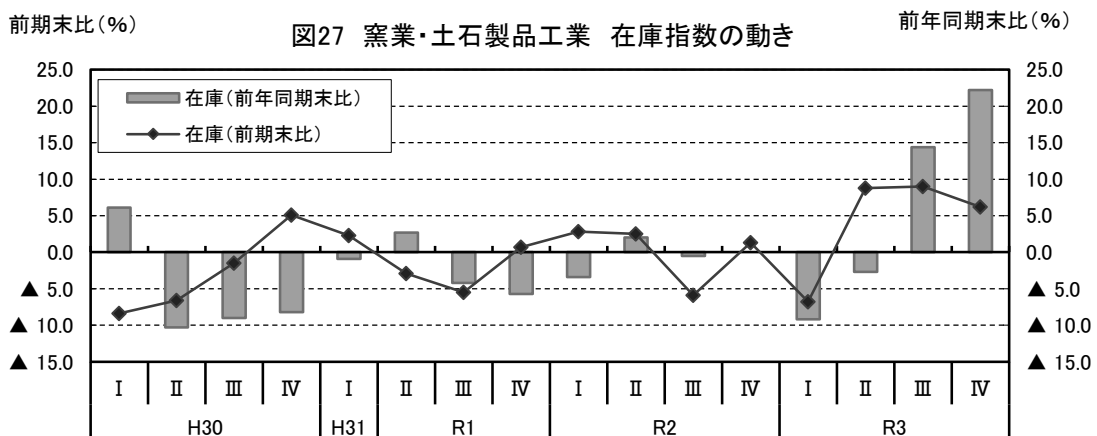
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲5.3%と平成31年Ⅰ期以降9期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期2.4%、Ⅲ期24.4%、Ⅳ期7.7%と3期連続で前年を上回った(図26、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲6.8%と低下したが、Ⅱ期8.8%、Ⅲ期9.0%、Ⅳ期6.2%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期▲9.2%、Ⅱ期▲2.7%と前年を下回ったが、Ⅲ期14.4%、Ⅳ期22.2%と2期連続で前年を上回った(図27、統計表第4表)。



(8) 化学工業

①概況

生産指数は前年比▲1.7%（寄与度▲0.56）で107.3となり、4年ぶりに低下した。これは8品目中、6品目（化学肥料、無機化学製品、その他化学製品、医薬品原末・原液など）が増加したものの、2品目（プラスチック樹脂、医薬品）が減少したことによる（表8、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比5.4%（寄与度1.55）の上昇で91.3となり、2年ぶりに上昇した。これは8品目中、2品目（化学肥料、医薬品）が減少したものの、6品目（無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品原末・原液など）が増加したことによる（表8、統計表第9表）。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
化学工業	2734.0	109.2	107.3	▲1.7	▲0.56	3225.2	86.6	91.3	5.4	1.55
化学肥料	179.3	83.6	94.6	13.2	0.21	349.7	104.8	85.8	▲18.1	▲0.68
ソーダ工業品	4.3	X	X	X	X	2.6	X	X	X	X
無機化学製品	31.0	111.3	134.1	20.5	0.08	84.6	107.3	119.8	11.6	0.11
プラスチック樹脂	33.4	96.6	96.4	▲0.2	▲0.00	127.1	74.5	116.4	56.2	0.54
その他化学製品	125.9	91.7	99.6	8.6	0.11	752.5	66.0	96.2	45.8	2.32
接着剤	16.4	X	X	X	X	107.5	X	X	X	X
医薬品原末・原液	232.8	127.4	128.8	1.1	0.04	483.2	72.4	86.7	19.8	0.70
医薬品	2110.9	110.9	106.4	▲4.1	▲1.02	1318.0	99.3	88.0	▲11.4	▲1.52

寄与度は鉱工業に対する数値

図28 化学工業 月別季節調整指数(平成27年=100)

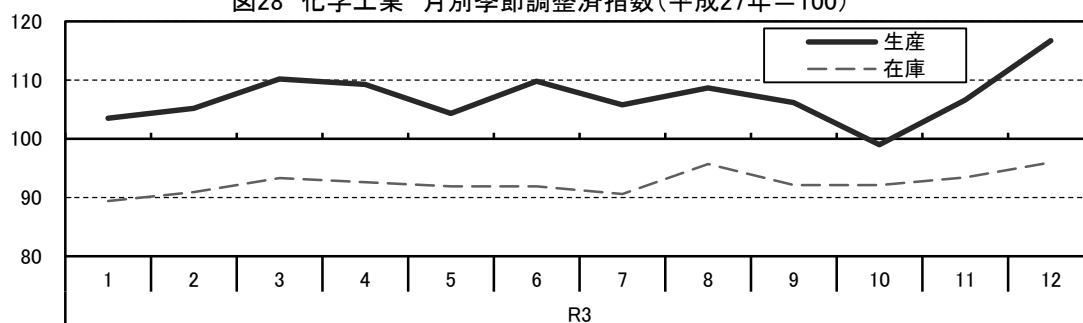
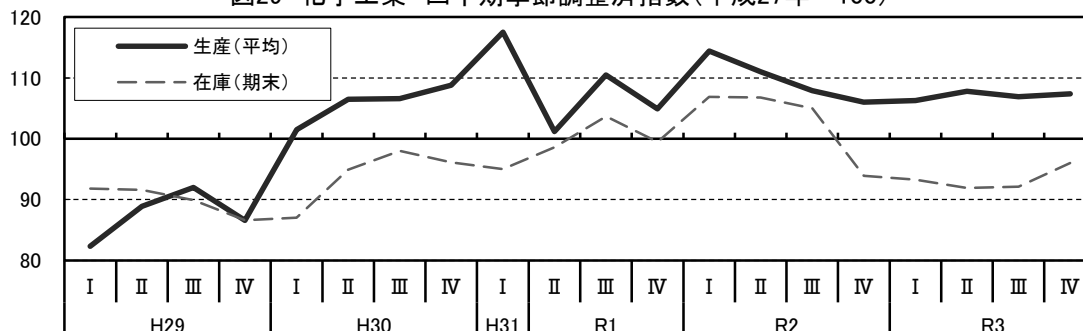


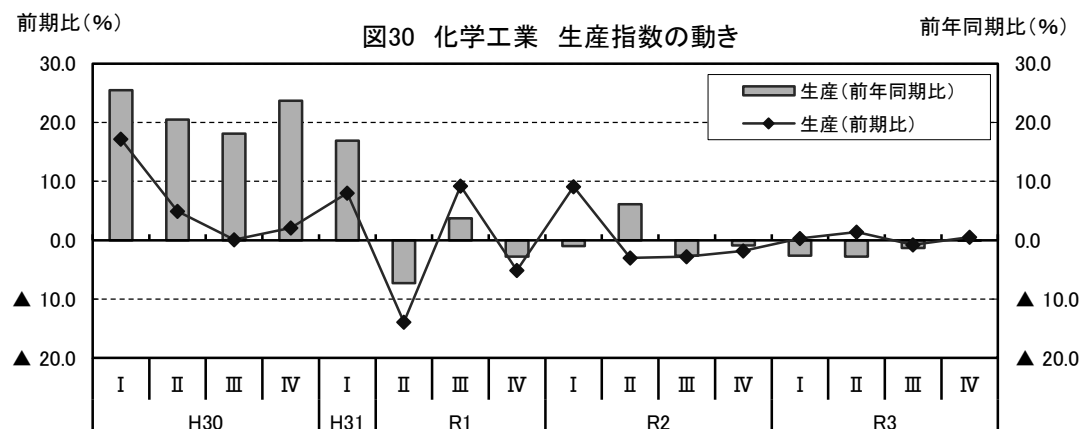
図29 化学工業 四半期季節調整指数(平成27年=100)



②生 産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.3%、Ⅱ期 1.4%と上昇したが、Ⅲ期▲0.8%と低下し、Ⅳ期 0.5%と再び上昇した。

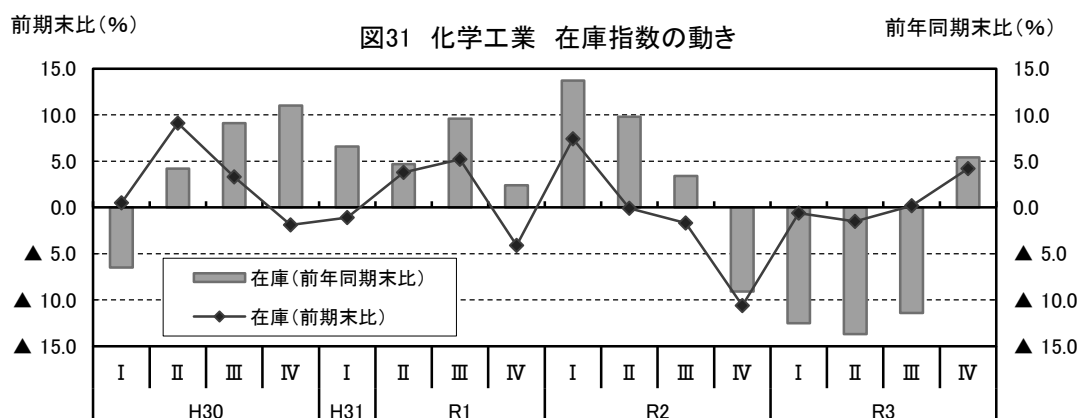
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲2.6%、Ⅱ期▲2.8%、Ⅲ期▲1.3%、Ⅳ期▲0.1%と令和2年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図30、統計表第3表）。



③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.6%、Ⅱ期▲1.5%と令和2年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期 0.2%、Ⅳ期 4.2%と2期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲12.5%、Ⅱ期▲13.7%、Ⅲ期▲11.4%と令和2年Ⅳ期以降4期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期 5.4%と前年を上回った（図31、統計表第4表）。



(9) プラスチック製品工業

①概況

生産指数は前年比 6.6% (寄与度 0.32) の上昇で 96.5 となり、3年ぶりに上昇した。これは6品目すべてが増加したことによる(表9、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 1.1% (寄与度 0.09) の上昇で 129.1 となり、2年ぶりに上昇した。これは6品目中、3品目(容器、日用品雑貨、その他プラスチック製品)が減少したものの、3品目(フィルム・シートなど)が増加したことによる(表9、統計表第9表)。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
		平成27年=100								
プラスチック製品工業	497.4	90.5	96.5	6.6	0.32	621.8	127.7	129.1	1.1	0.09
フィルム・シート	211.6	78.5	82.2	4.7	0.08	130.4	76.9	115.7	50.5	0.52
機械器具部品	83.8	90.7	103.0	13.6	0.11	5.1	X	X	X	X
容器	43.4	100.9	107.8	6.9	0.03	37.8	112.8	100.2	▲ 11.2	▲ 0.05
日用品雑貨	59.2	102.9	103.2	0.3	0.00	174.2	106.8	101.1	▲ 5.3	▲ 0.10
建材・強化製品	29.1	97.8	102.9	5.2	0.02	4.6	X	X	X	X
その他プラスチック製品	70.3	106.9	116.5	9.0	0.07	269.7	168.4	157.1	▲ 6.7	▲ 0.31

寄与度は鉱工業に対する数値

図32 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

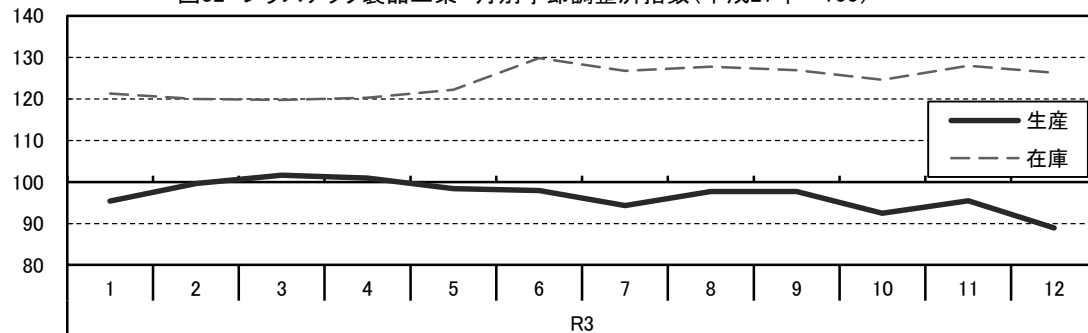
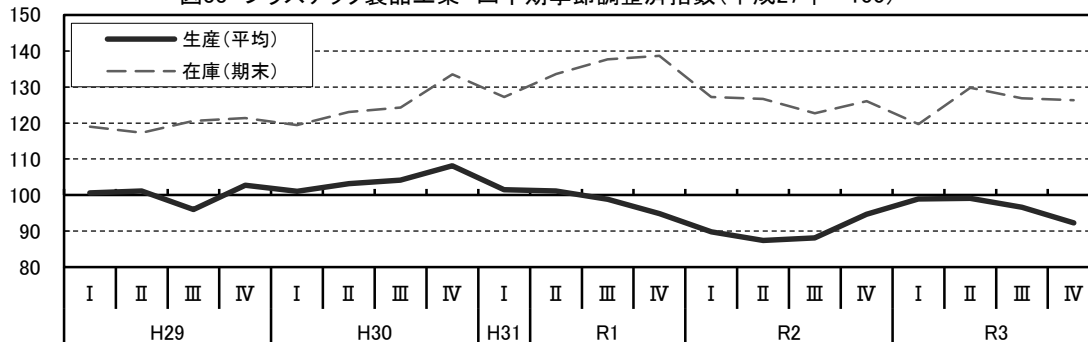


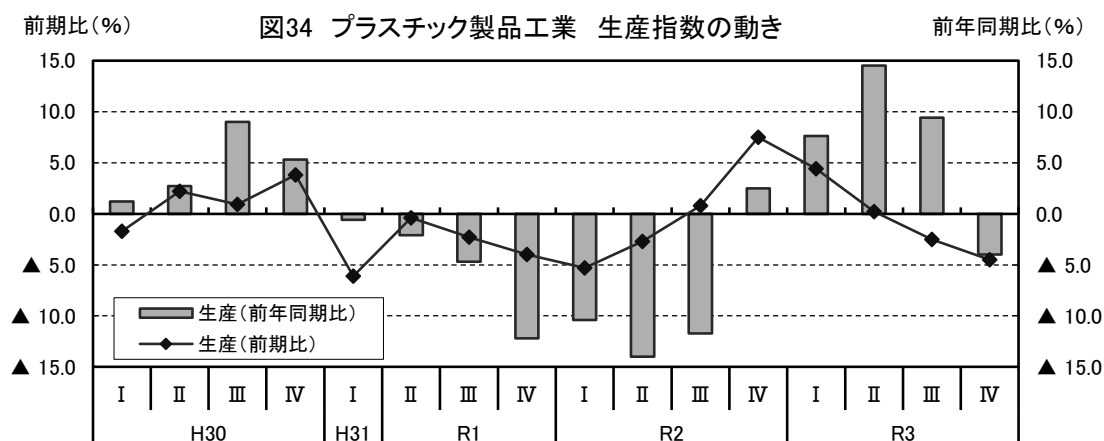
図33 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.4%、Ⅱ期 0.2%と令和2年Ⅲ期以降4期連続で上昇したが、Ⅲ期▲2.5%、Ⅳ期▲4.5%と低下した。

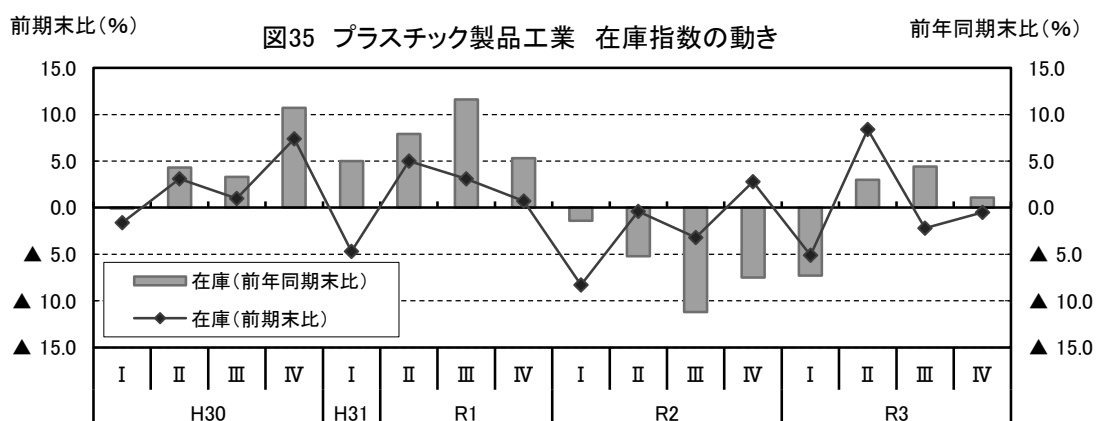
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 7.6%、Ⅱ期 14.5%、Ⅲ期 9.4%と令和2年Ⅳ期以降4期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲4.0%と前年を下回った（図34、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.1%と低下したが、Ⅱ期 8.4%と上昇し、Ⅲ期▲2.2%、Ⅳ期▲0.5%と2期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲7.3%と令和2年Ⅰ期以降5期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 3.0%、Ⅲ期 4.4%、Ⅳ期 1.1%と3期連続で前年を上回った。（図35、統計表第4表）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

①概況

生産指数は前年比 16.6% (寄与度 0.56) の上昇で 91.3 となり、2年ぶりに上昇した。これは6品目中、1品目が減少したものの、5品目(板紙、段ボール・箱・袋など)が増加したことによる(表10、統計表第7表)。

在庫指数は前年末比 34.6% (寄与度 1.25) の上昇で 79.8 となり、2年ぶりに上昇した。これは5品目中、1品目が減少したものの、4品目(板紙、段ボール・箱・袋など)が増加したことによる(表10、統計表第9表)。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	78.3	91.3	16.6	0.56	597.5	59.3	79.8	34.6	1.25
パルプ	88.7	X	X	X	X	-	-	-	-	-
紙	131.7	X	X	X	X	221.3	X	X	X	X
紙器	6.8	X	X	X	X	45.0	X	X	X	X
板紙	53.3	64.8	70.3	8.5	0.03	114.0	59.3	67.1	13.2	0.09
段ボール・箱・袋	77.4	98.2	99.4	1.2	0.01	15.5	96.6	96.8	0.2	0.00
その他紙製品	44.0	X	X	X	X	201.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図36 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

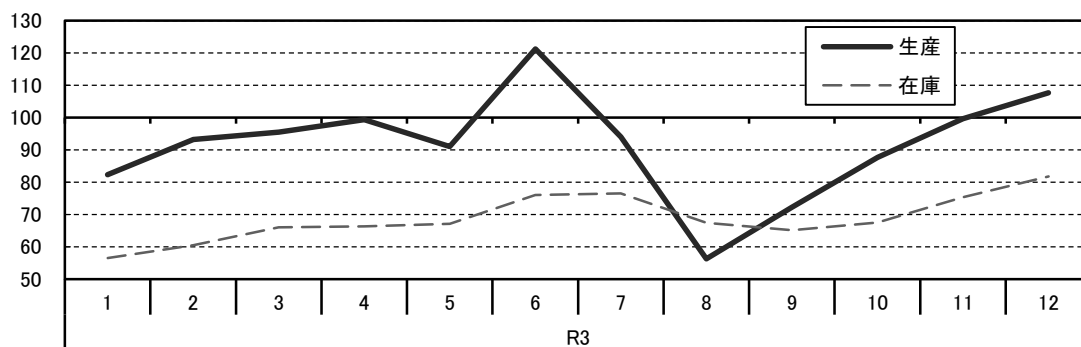
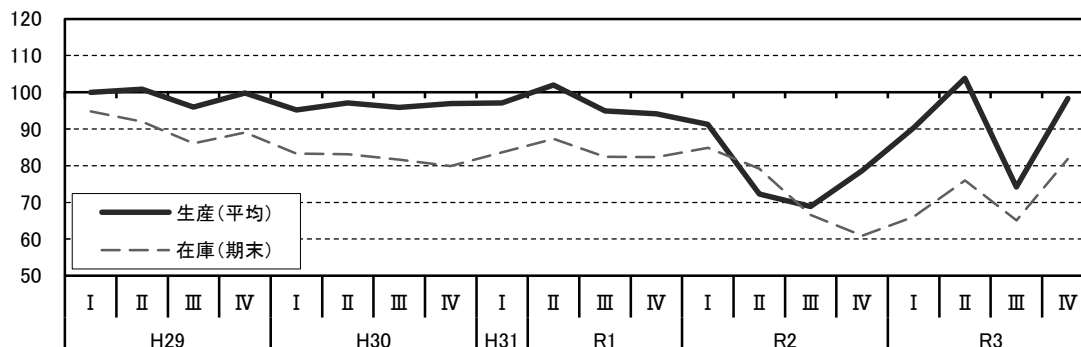


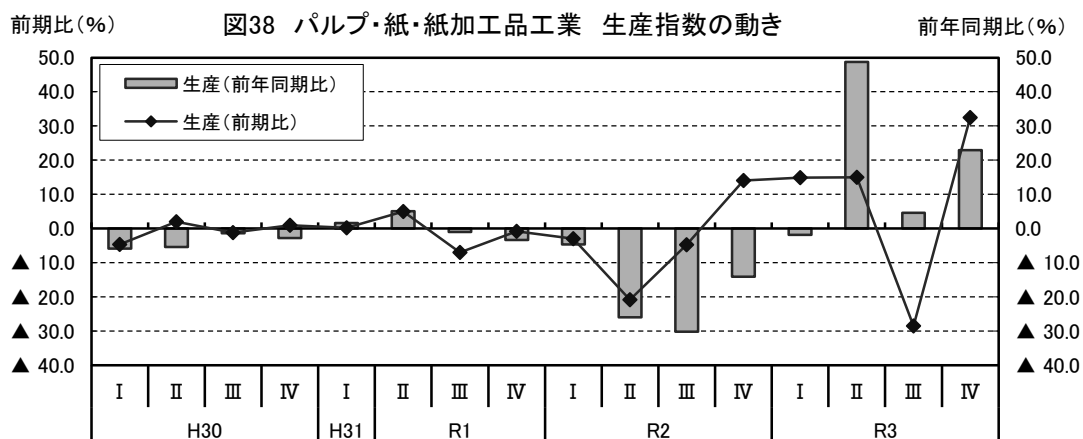
図37 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 14.9%、Ⅱ期 15.0%と令和2年Ⅳ期以降3期連続で上昇したが、Ⅲ期▲28.5%と低下し、Ⅳ期 32.5%と再び上昇した。

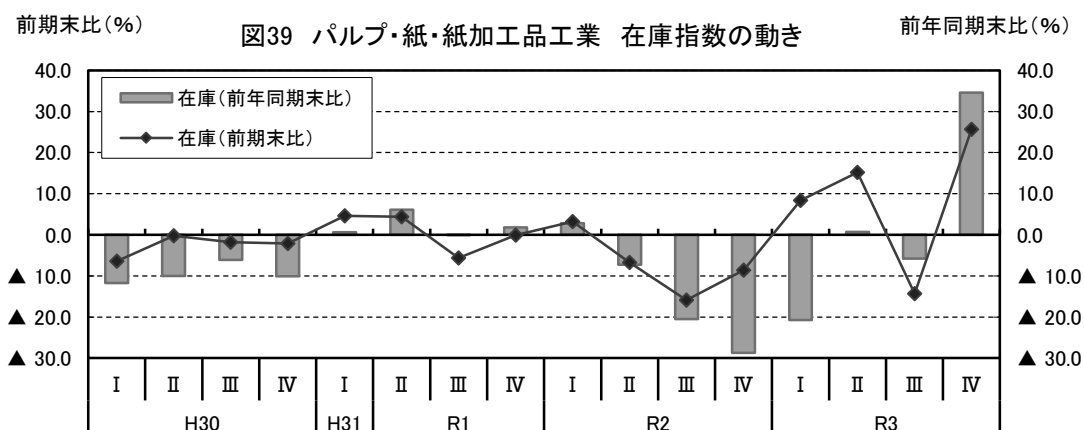
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲1.8%と令和元年Ⅲ期以降7期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 48.7%、Ⅲ期 4.6%、Ⅳ期 22.9%と3期連続で前年を上回った（図38、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 8.4%、Ⅱ期 15.2%と上昇したが、Ⅲ期▲14.3%と低下し、Ⅳ期 25.7%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲20.7%と令和2年Ⅱ期以降4期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 0.7%と前年を上回り、Ⅲ期▲5.8%と前年を下回り、Ⅳ期 34.6%と再び前年を上回った（図39、統計表第4表）。



(11) 繊維工業

①概況

生産指数は前年比▲0.8%（寄与度▲0.01）で77.2となり、4年連続で低下した。これは5品目中、3品目（染色整理、衣類、その他繊維製品）が増加したものの、2品目（化繊・紡績、織物）が減少したことによる（表11、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比2.2%（寄与度0.06）の上昇で100.7となり、2年ぶりに上昇した。これは5品目中、3品目（化繊・紡績、織物、その他繊維製品）が減少したものの、2品目（染色整理、衣類）が増加したことによる（表11、統計表第9表）。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
繊維工業	193.5	77.8	77.2	▲0.8	▲0.01	258.1	98.5	100.7	2.2	0.06
化繊・紡績	41.1	67.3	65.5	▲2.7	▲0.01	38.0	88.3	73.9	▲16.3	▲0.06
織物	31.5	92.9	71.3	▲23.3	▲0.07	76.6	102.8	72.7	▲29.3	▲0.24
染色整理	27.8	108.4	108.7	0.3	0.00	38.5	100.9	151.4	50.0	0.20
衣類	72.2	63.7	70.1	10.0	0.05	87.2	90.7	109.7	20.9	0.17
その他繊維製品	20.9	83.9	91.7	9.3	0.02	17.8	134.1	124.7	▲7.0	▲0.02

寄与度は鉱工業に対する数値

図40 繊維工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

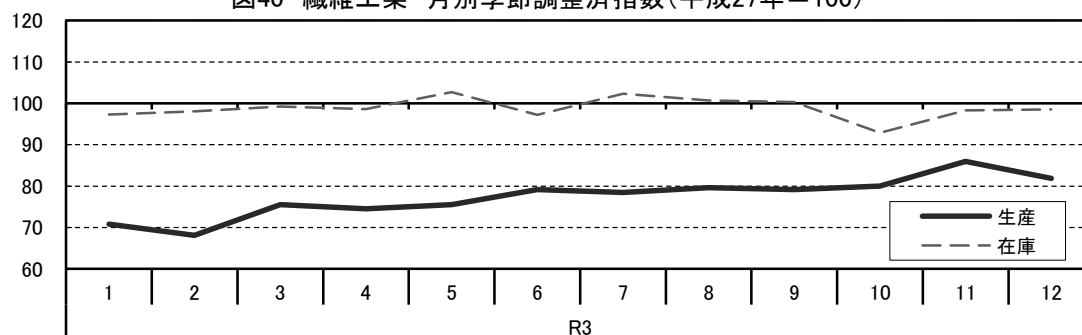
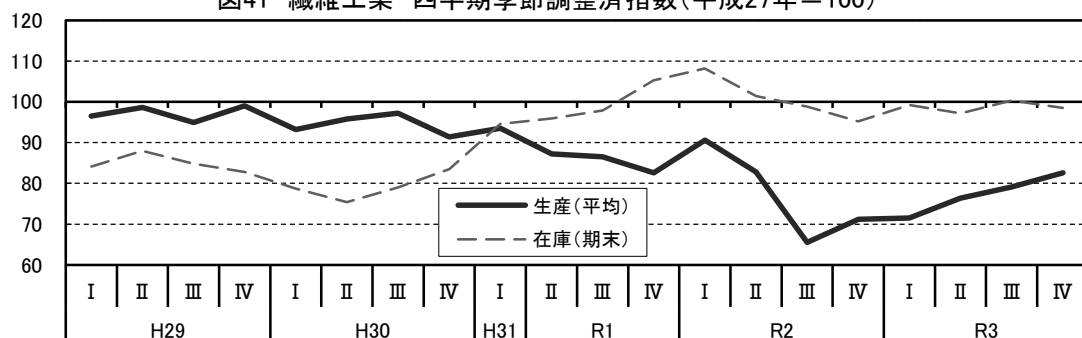


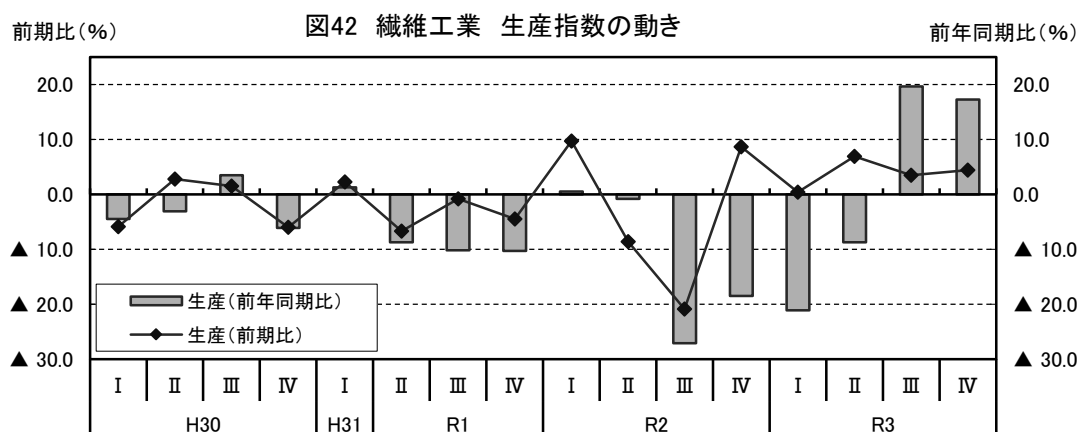
図41 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.4%、Ⅱ期 6.9%、Ⅲ期 3.5%、Ⅳ期 4.4%と令和2年Ⅳ期以降5期連続で上昇した。

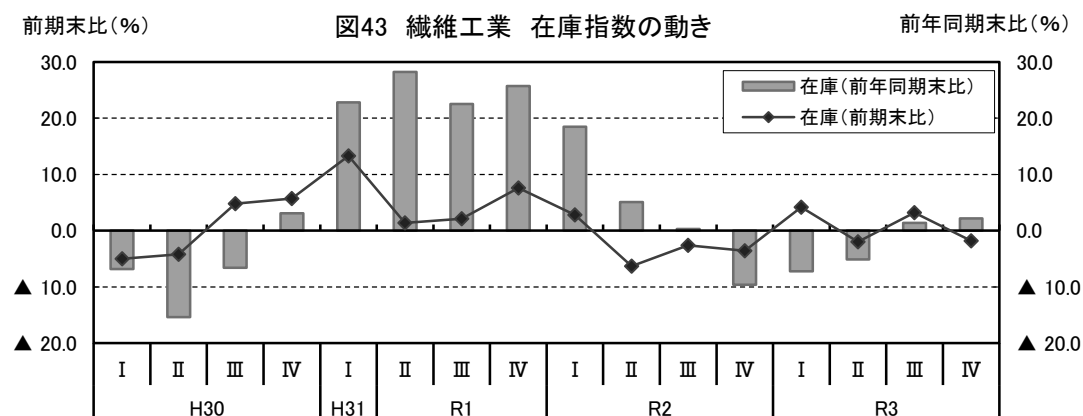
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲21.1%、Ⅱ期▲8.7%と令和2年Ⅱ期以降5期連続で前年を下回り、Ⅲ期 19.7%、Ⅳ期 17.3%と前年を上回った（図42、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.2%と上昇したが、Ⅱ期▲2.0%と低下し、Ⅲ期 3.2%と再び上昇したのち、Ⅳ期▲1.8%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲7.2%、Ⅱ期▲5.1%と令和2年Ⅳ期以降3期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 1.4%、Ⅳ期 2.2%と前年を上回った。（図43、統計表第4表）。



(12) 食料品工業

①概況

生産指数は前年比 2.1%（寄与度 0.09）の上昇で 79.1 となり、7年ぶりに上昇した。これは7品目中、3品目（飲料など）が減少したものの、4品目（畜産食料品、調味料、その他の食料品など）が増加したことによる（表12、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲4.3%（寄与度▲0.22）で 78.5 となり、4年連続で低下した。これは7品目中、4品目（調味料、精穀・製粉など）が増加したものの、3品目（その他の食料品、飲料など）が減少したことによる（表12、統計表第9表）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
		平成27年=100					平成27年=100			
食料品工業	531.7	77.5	79.1	2.1	0.09	603.8	82.0	78.5	▲4.3	▲0.22
畜産食料品	120.0	73.1	77.3	5.7	0.05	86.5	X	X	X	X
水産食料品	23.5	X	X	X	X	30.4	X	X	X	X
調味料	23.0	84.8	86.7	2.2	0.00	84.4	62.3	68.0	9.1	0.05
精穀・製粉	1.3	X	X	X	X	2.9	92.0	98.3	6.8	0.00
パン・菓子	42.9	X	X	X	X	9.1	X	X	X	X
その他の食料品	215.9	83.0	85.1	2.5	0.05	94.3	95.3	92.1	▲3.4	▲0.03
飲料	105.1	77.7	75.5	▲2.8	▲0.02	296.2	91.5	82.1	▲10.3	▲0.28

寄与度は鉱工業に対する数値

図44 食料品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

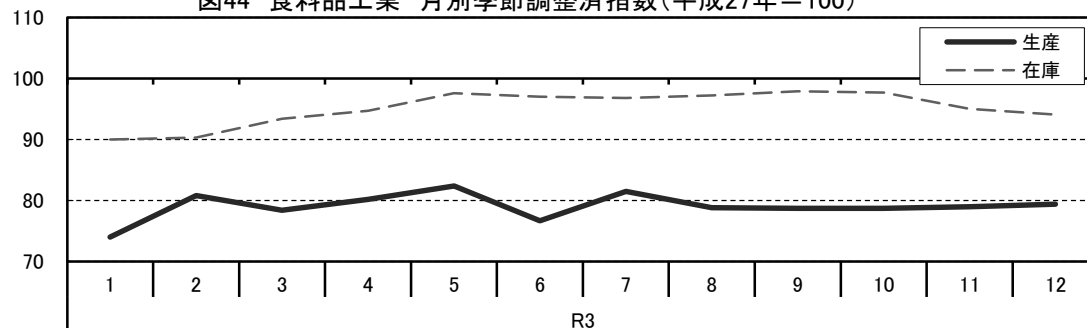
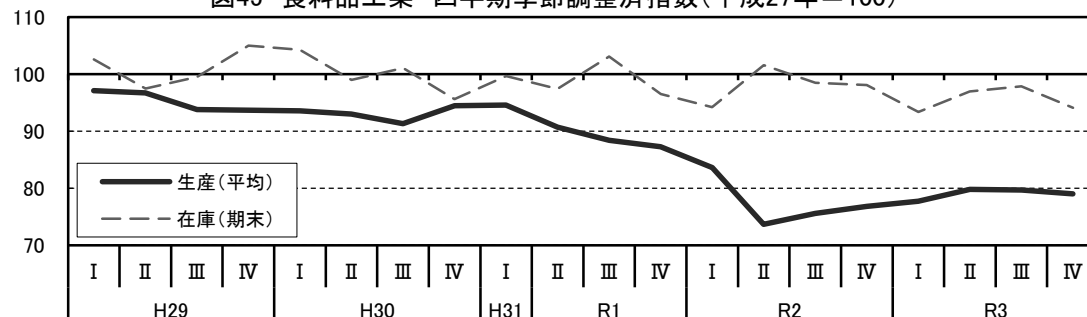


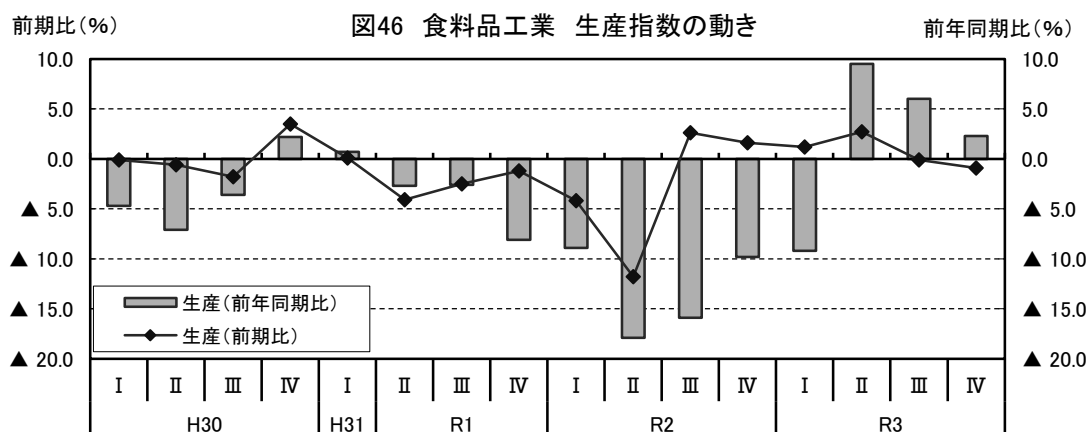
図45 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.2%、Ⅱ期 2.7%と令和2年Ⅲ期以降4期連続で上昇したが、Ⅲ期▲0.1%、Ⅳ期▲0.9%と2期連続で低下した。

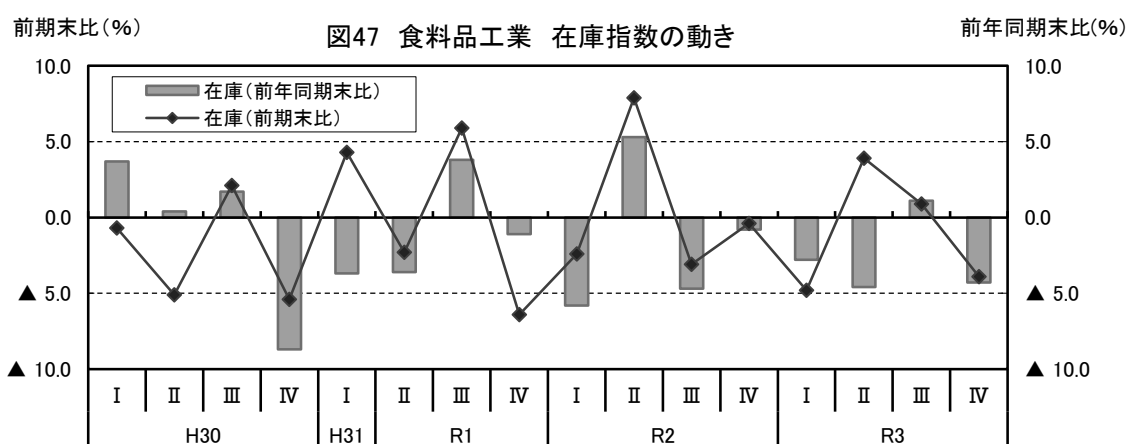
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲9.2%と令和元年Ⅱ期以降8期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 9.5%、Ⅲ期 6.0%、Ⅳ期 2.3%と3期連続で前年を上回った（図46、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲4.8%と令和2年Ⅲ期以降3期連続で低下したが、Ⅱ期 3.9%、Ⅲ期 0.9%と上昇し、Ⅳ期▲3.9%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲2.8%、Ⅱ期▲4.6%と令和2年Ⅲ期以降4期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 1.1%と前年を上回り、Ⅳ期▲4.3%と再び前年を下回った（図47、統計表第4表）。



(13) その他工業

①概況

生産指数は前年比 15.2%（寄与度 0.66）の上昇で 85.8 となり、6 年ぶりに上昇した。これは 4 品目中、1 品目（印刷業）が減少したものの、3 品目（木材・木製品工業など）が増加したことによる（表 13、統計表第 7 表）。

在庫指数は 2 年ぶりに上昇した。

表 13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和2年	令和3年				令和2年	令和3年		
		平成27年=100					平成27年=100			
その他工業	544.0	74.5	85.8	15.2	0.66	271.6	X	X	X	X
ゴム製品工業	44.7	X	X	X	X	27.5	X	X	X	X
印刷業	104.4	84.1	80.2	▲ 4.6	▲ 0.04	28.8	X	X	X	X
木材・木製品工業	107.2	98.8	105.2	6.5	0.07	-	-	-	-	-
その他製品工業	287.7	X	X	X	X	215.3	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図48 その他工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

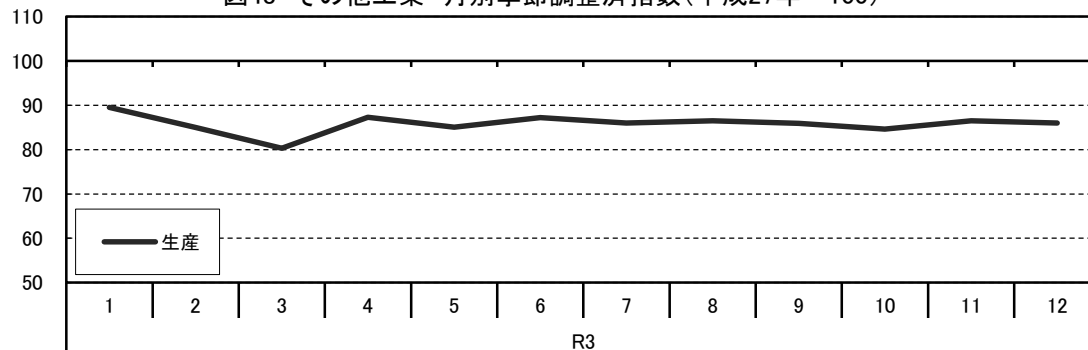
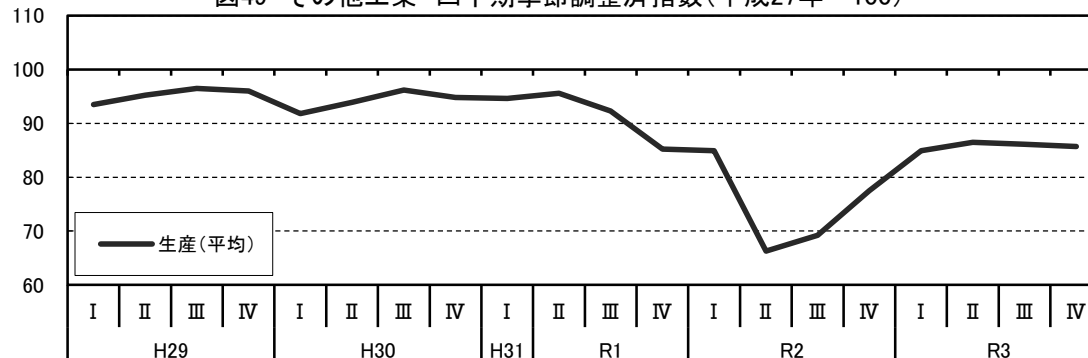


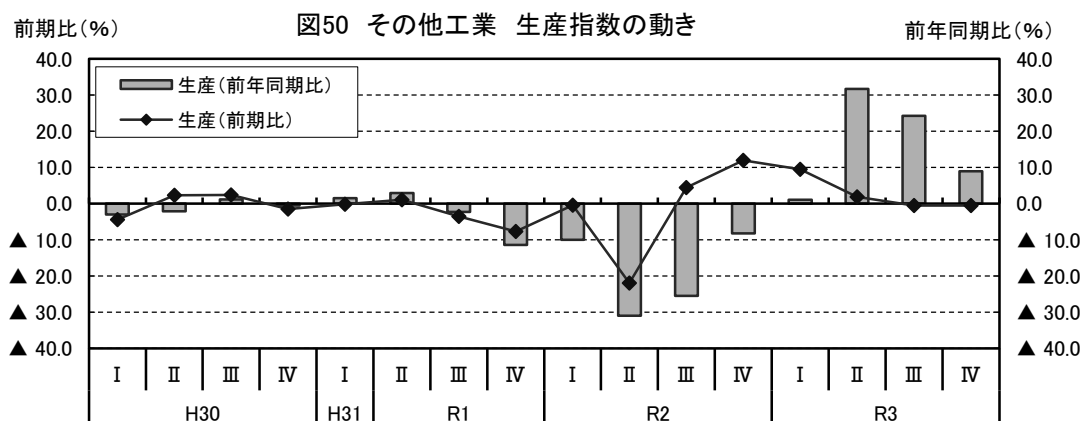
図49 その他工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生 産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.5%、Ⅱ期 1.9%と令和2年Ⅲ期以降4期連続で上昇したが、Ⅲ期▲0.5%、Ⅳ期▲0.5%と低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 1.1%、Ⅱ期 31.7%、Ⅲ期 24.3%、Ⅳ期 9.0%と4期連続で前年を上回った（図50、統計表第3表）。



③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期、Ⅱ期は上昇し、Ⅲ期、Ⅳ期は低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は前年を下回り、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期は前年を上回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

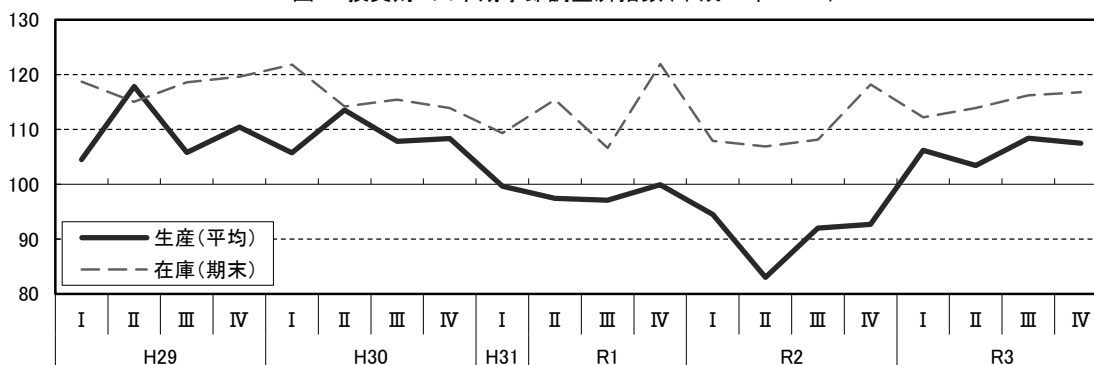
(1) 最終需要財

生産は前年比（原指数）5.2%の上昇で 101.7 となり、在庫は前年末比（原指数）▲2.2%で 93.1 となった（統計表第 11 表・第 13 表）。

①投資財

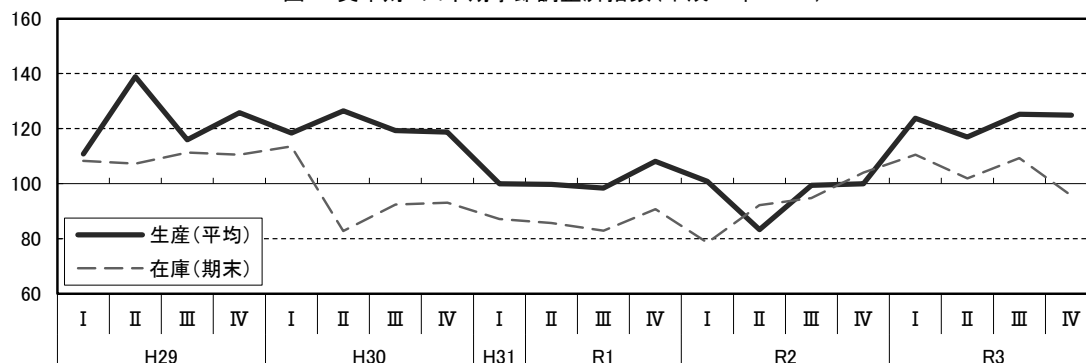
投資財全体では、生産が前年比（原指数）17.8%の上昇で 106.5 となり、在庫が前年末比（原指数）1.7%の上昇で 120.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、Ⅰ期 14.6%と上昇し、Ⅱ期▲2.6%と低下したが、Ⅲ期 4.8%と再び上昇し、さらにⅣ期▲0.8%と再び低下した（図 1、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

図1 投資財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

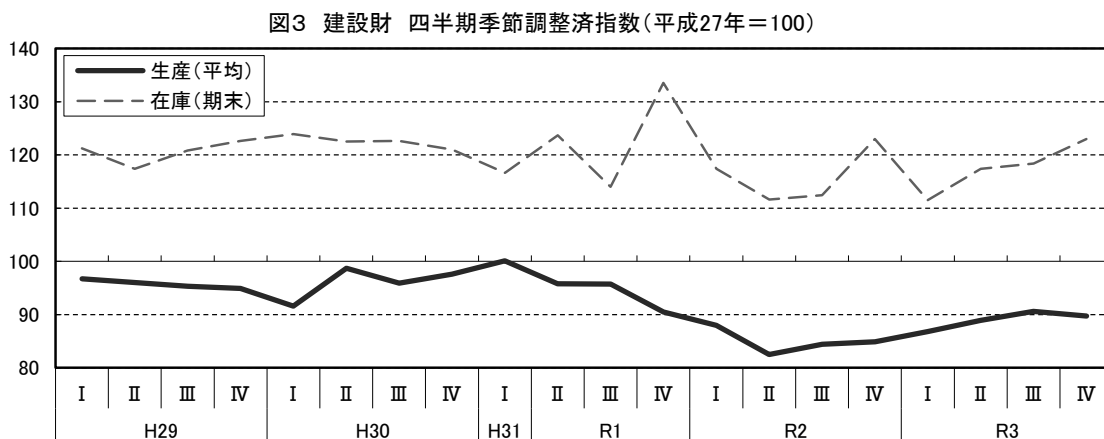


投資財のうち**資本財**は、生産が前年比（原指数）28.3%の上昇で 122.8 となり、在庫が前年末比（原指数）▲9.6%で 103.7 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、Ⅰ期 23.8%と上昇し、Ⅱ期▲5.5%と低下したが、Ⅲ期 7.0%と再び上昇し、さらにⅣ期▲0.2%と低下した（図 2、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

図2 資本財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

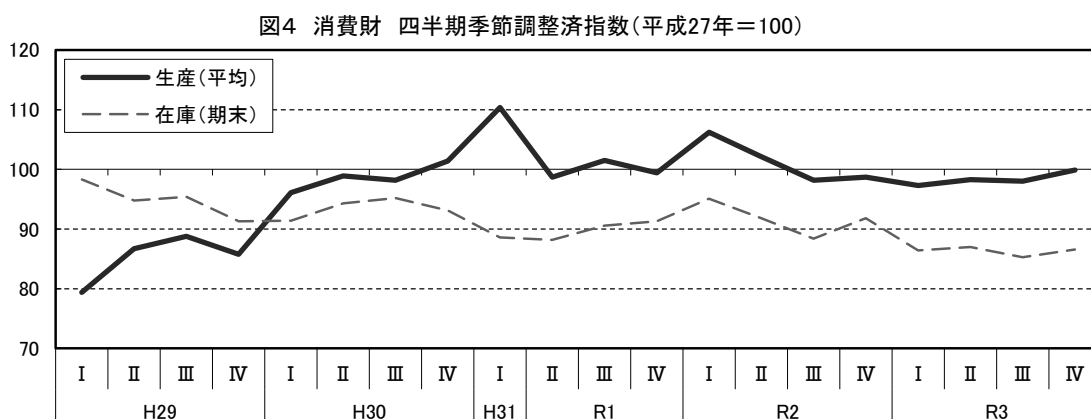


また、**建設財**は、生産が前年比（原指数）**5.2%**の上昇で**89.2**となり、在庫が前年末比（原指数）**5.2%**の上昇で**126.4**となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期**2.2%**、II期**2.4%**、III期**1.9%**と令和2年III期以降5期連続で上昇したが、IV期**▲1.0%**と低下した（図3、統計表第2表・第5表・第6表）。



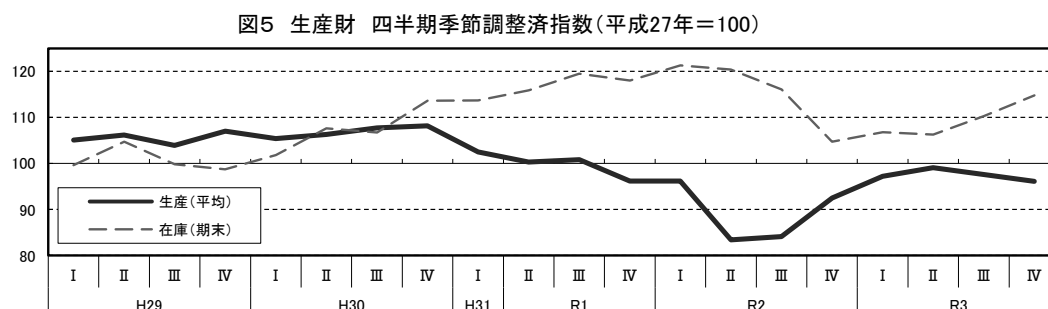
②消費財

消費財全体では、生産が前年比（原指数）**▲2.1%**で**98.6**となり、在庫が前年末比（原指数）**▲4.0%**で**84.5**となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期**▲1.4%**と低下したが、II期**1.0%**と上昇し、III期**▲0.3%**と再び低下し、さらにIV期**1.9%**と再び上昇した（図4、統計表第2表・第5表・第6表）。



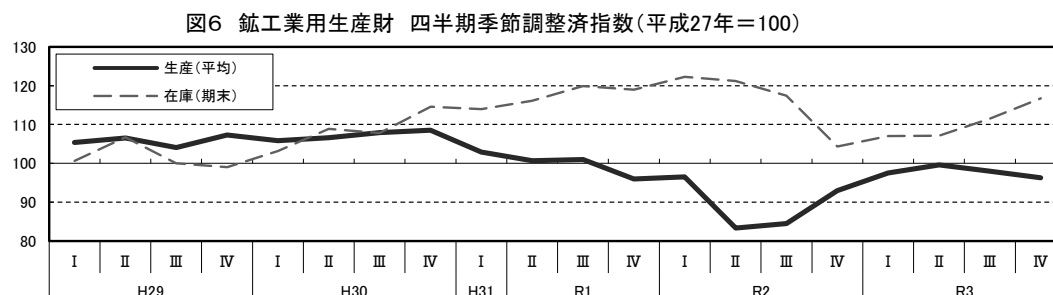
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）9.1%の上昇で97.5となり、在庫が前年末比（原指数）10.7%の上昇で110.0となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期5.1%、II期2.0%と令和2年III期以降4期連続で上昇したが、III期▲1.5%、IV期▲1.5%と2期連続で低下した（図5、統計表第2表・第5表・第6表）。



① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比（原指数）9.3%の上昇で97.9となり、在庫が前年末比（原指数）12.3%の上昇で111.3となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期4.8%、II期2.2%と令和2年III期以降4期連続で上昇したが、III期▲1.6%、IV期▲1.7%と低下した（図6、統計表第2表・第5表・第6表）。



② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比（原指数）3.7%の上昇で87.3となり、在庫が前年末比（原指数）▲19.3%で85.5となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期11.8%と上昇したが、II期▲11.9%と低下し、III期12.1%と再び上昇し、IV期▲1.9%と再び低下した（図7、統計表第2表・第5表・第6表）。

